

署セシモノニ有之哉知ルヘカラス然ルヲ署名ノ前後ヲ以テ詐僞ト
判決セラル、廉是不服ノ第三條也

第四條

既ニ封記スル書狀ニ押捺シアレハ後日追押スルヲ推測スル云々ト
アルモ素ヨリ書狀ノ袋ニ封緘押印成規之アルモノニヤ普通ノ成文
ヲ見ス只人ノ適意ヨシテ或ハ押印ヲ用ヒ又ハ封記シ又ハ兩ナカラ
用ユル等一般ノ習慣ナレハ是ヲ以テ勘合シ証トテス可ラサルヲ理
ナシ是不服ノ第四條也

第五條

甲第一號第二號証ハ何人ノ記載ニ掛ルヤ明言スル能ワサル云々
ト凡ソ人ノ記証ヲ授受スルニ筆者ノ姓名ヲ明了シテ受クヘキモ
ノニアラス此兩証ハ明治八年八月廿八日豊岡京口町鎌田山三郎

方ニ於テ谷岡彌三太夫外一名連坐ニテ彌三治ヨリ受取タレハ筆者
ノ如何シヲ問ヘキナシ是明言スル能サル所以ナリ然ルチ之ヲ以テ
詐僞ノ一端ト判決セラル審理ノ未タ調ハサレモカ是不服ノ第五
條也

前掲ノ如ク逐條ノ審理未タ調理セズ猥リニ谷岡彌三治ノ口實ヲ信
憑トシ處決ナリシハ曲庇壓制ニシテ緘口甘受スル能ワサル所況ヤ
三週年ノ多月日代人トナリ至貴ノ月日至重ノ勞力ヲ費ヤシ慰勞給
與ヲ約セサル者アラシヤ万一彌三治口供ノ如クナレハ妻孥何ヲ以
テ生活スルアラシ此レ情誼ニ於テ万不可有ノ義也依テ條々明細ヲ
陳シテ上告候也

大審院ニ於テ裁判スルコト左如シ
上告人主張ノ主点

上告人平尾彌平カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

第一 自分儀日當取極ヲ求ムル云々トアレヒ自分ヨリ日當取極ヲ
求ムル書狀ヲ郵送シタル覺無之トノコト

第二 大阪ヨリ拾五圓ノ給與ヲ乞フハ當時ノ宿料雜費ヲ充ル爲メ
其ノヨリニシテ月給ヲ求メザニハアテサリシトシテハ

第三 彌平三太夫ノ姓ハ押印ノ後記セシ判然タリト申渡サルハ
彌平三太夫ニ於テ然セシヤ知ル可ラサルニ是ヲ以テ詐僞ト判決セ

第四 書狀ニ封記スルト或ハ其上ニ又押印スルト孰レモ人々ノ適
意ニ用フルモノナルニ是ヲ以テ後日ノ追押ニ係ル法推測スル法

第五 甲第一號第二號証ハ谷岡彌三太夫外ニ名連坐候テ彌三治
リ受取タレハ筆者ノ誰ナルヲ問フヘキナキヲ以テ明言スル能ハ

サルニ是ヲ以テ詐僞ノ一端ト判決セラレハハ不服ナリトシテ
彌平三太夫辨明書ヲ提出シテ其ノ誤謬ヲ示シテ其ノ誤謬ヲ

第一條
平尾彌平ニ於テハ日當取極ヲ要セシ書狀ヲ郵送シタル覺無之旨申
立シト彌平カ明治十年一月廿三日谷岡彌三治ハ宛テ郵送シタル乃

チ乙第三號書狀ノ末文ニ且又私共日當ノ義者何レニテモ宜鋪候共
御主人様御勘考ノ上御取極ヲ被成下候ハハ難有奉存候余ハ御兩君

様御出張ノ節万事御咄シ可申上候トアテ彌平ツ印ヲ押捺シタル
ノニナラス彌平カ自ラ自筆ナリト申立ル所ノ乙六號心記ト表記セ

ル帳簿ノ書風ト筆勢體格毫モ相異ナルコトヲ彌平カ自書ナルコト明
白成モソトス又大阪ヨリ金圓ノ給與ヲ請求セシハ當時ノ雜費等ニ

流ル爲メシニシテ月給ヲ求メシニハアラサリシト申立ルト雖モ
彌平カ明治十年五月二十七日彌三治へ郵送シタル乙第七號書狀中
(金拾五圓御カワシ金御タノミ申候ナリ月ニ拾五圓ハ御手アテタノ
ニ上申候ナリ)トノ文面ヲ見レハ右拾五圓ヲ爲替ヲ請ヒ而シテ尙月
々拾五圓ノ給料ヲ要求セシト是亦タ判然タルモノナリトス左スレ
ハ彌平カ日當取極ヲ要セシ書狀ヲ郵送シタル覺無之又大坂ヨリ月
々拾五圓ノ給料ヲ請求セシトモ無之トノ申立ハ兩ツナカラ不條理
ト申立ニシテ相立サルモノナリトス(上告狀第一
條第二條)

第二條

彌三太夫於テ押印ノ后姓名ヲ記シタルヤ知ル可ラサルニ署名捺
印シ前後ヲ以テ詐僞ヲ判決セラルハ不服ナリト申立レモ凡ソ署
名ノ後捺印スルハ通常一般ノ舊慣ニシテ捺印ノ後署名スルハ尋常

ノ例規ニアラサルノミナラス本人彌三太夫ニ於テ素ヨリ証人ニ立
チシト無之ト申立而シテ其証書ノ筆タル現ニ彌三太夫ノ筆ニ非サ
ルヲ以テ彌平カ詐僞セシト判然認ルニ足ルモノトス甲第三號ノ書
狀ハ封記ノ上ニ捺印シアルヲ以テ後日ノ追押ニ係ルヲ追測ストノ
宣告ハ不服ナリト申立ルモ該印タル彌三治カ豊岡區裁判所へ照査
ノ爲メ差出シタル乙第一號小印鑑ト相違セルヲ見レハ到底彌平カ
僞造シテ追押セシモノト認定セザルヲ得ス因テ彌平カ署名捺印ノ
前後ヲ以テ詐爲ト判決セラレ又封記ノ上ニ捺印シアルヲ以テ後日
ノ追押ト推測セラルハ不服ナリト申立ハ相立ストス(上告狀第
三條第四條)

第三條

甲第一號第二號証ハ何人ノ記載ニ係ルヤ明言スル能ハサルヲ以テ

詐偽ノ一端ヲ証明スルトノ判決ハ不服ナリト申立ノモ右一號ノ証書ハ偽印ヲ押捺シアルノミナラス果シテ彌三治ヨリ眞ニ相渡セシトセハ明治八年中右ノ定約ヲ取極メ明治十年ニ至リ乙二號書翰ノ如ク日當ハ御主人様御勘考ノ上御取極メ被成下ト申越スヘキ理由ナシ左スレハ右一二號証ノ詐偽ニ係ルコト明白ナリトス依テ神戸裁判所管内豊岡區裁判所ノ裁判ハ破毀スルノ限ニアラストス(第五條) (上告狀)

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年四月十四日神戸裁判所姫路支廳管内豊岡區裁判所ニ於テ平尾彌平ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第三百五十七號

○判文監守盜ノ件明治十一年七月十日上告
明治十二年九月廿五日判決

堺縣河内國古市郡古市

村平民元四等郵便局詰

六等取扱役

吉田耕太郎

明治十一年五月
三十七年六月

右耕太郎カ明治十一年五月二十一日大坂裁判所堺縣支廳ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

自分儀塚縣河内國古市郡古市村郵便局詰在勤ニテ明治八年九月ヨリ郵便爲替方取扱居候處右爲替金ノ儀ハ其月入金ノ分ヲ翌月十日迄ニ取纏メ本寮へ可相納規則ナルガ故其月入金ノ分ヲ流用致候テモ翌月一日ヨリ十日迄ニ入金ノ分ヲ以テ補ヒ候得ハ納メ方ニ差支無之ト思惟シ不相濟事トハ存シナカラ爾來竊ニ流用罷在候處明治

九年五月二十八日堺縣ヨリ臨時御檢査ニ相成明治九年五月二日ヨリ古市村清水竹次郎外拾八人ヨリ受取リタル爲替金千三百五十七圓八十四錢ハ全ク當時現存スヘキ部分ナルヲ最前費用セシ金額ニ充テ既ニ前四月分ノ上納ニ相立候故現ニ右金額ノ不足ヲ生シ竟ニ發覺致候但シ右金額ハ商法資金ニ相用ヒ或ハ飲食等ニ遣捨殘金三十拾三圓貳拾三錢七厘及ヒ右金ノ内ニテ買取リタル貳錢郵便切手貳百枚同壹錢切手七百六拾枚壹錢端書百七十六枚ハ今般御引揚相成候事

右ノ口供ニ依リ明治十一年七月二日大坂裁判所堺支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申シ渡シタリ

其方儀河内國古市郡古市村郵便局在勤中監守スル所ノ官金ヲ私ニ使用スル賍金千三百五拾七圓八拾四錢ノ科賊盜律監守自盜ヲ以テ

論シ懲役終身申付ル

但シ費用セシ金額ハ資力限追徴ス

耕太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十一年七月十日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀郵便爲替取扱中明治九年五月二十八日其規則ニシテ堺縣ヨリ突然臨時檢査有之私不在ノ折柄ニ付金員一時流用ナセシテ發覺致タル科ニ依リ今般懲役終身被仰付候處不服ノ廉左ニ奉上告候

抵當証ノ寫概畧

書入證文之事

- 一 建家壹ヶ所
 - 一 藏建壹ヶ所
 - 一 屋鋪地何畝歩
- 外ニ建物ニヶ所
外ニ家附ノ品々不殘

但シ品物点數不分明ニ付荒増記ス
委敷ハ本紙ニテ知ル

右者私郵便爲換取扱中抵當トシテ書入候處實正也然ル上爲換取
扱中不正ノ儀有之金員流用候ト相知ノ候節ハ此抵當品相互ニ立
會ノ上糶賣致シ其代金ヲ以テ償却可致候若シ其金辻ニ不足ナル
トハ金辻ニ至ル迄足シ金ニ及辨償ニ可及候爲後証抵當書入証如
件

河内國第壹大區二小區
古市郡古市村郵便取扱

人

年號月日書入主 吉田耕太郎

同村

請人 吉田元一

兵長 名前忘却ナス

右之通相違無御座候

堺縣令稅所篤殿
外ニ繪圖面添アリ

請書及保證規則樞要ノ條寫概畧左ニ示ス

請書

官金御下ケテ不願自金貳百圓ヲ資金ニ備取扱ベク旨ヲ以當郵便
局ニモ爲換法方御取開願上候處御聞届相成候上テ懇篤ニ取扱可
仕候依而請書如件

郵便取扱人

吉田耕太郎

年號月日

驛遞頭前島密殿

保證

私郵便爲換取扱中懇篤ニ取扱候式勿論御規則不及申御本寮ヨ
リ御達等屹度遵守可仕候若其規則等相背候ハ、御定法ノ通り御
處分可有御坐其保証トシテ堺縣至屋鋪地建家等差入置候其爲保
証如斯候也

堺縣下河内國古市村

郵便取扱人

吉田耕太郎

年號月日

本文之趣相違無御座若本人不法ノ所行有之節ハ私辨償ノ責ニ
可相任候也

同村

請人

吉田元一

驛遞頭前島密殿

規則第十三條寫

一 官員派出シ爲換準備金臨時検査ノ節金員流用候ト發覺致候上
ハ其金高全額ノ罰金ヲ科スベキ事

規則第十七條寫

一身本引請人ハ本人ノナシタルト引請ルハ勿論トス故ニ本人ノ
犯シタル私ニ融通金其辨償シ能ハサル段申出候節ハ兼テ縣廳ニ
預ケタル抵當物ヲ以償シノ其金高ニ不足ナルトキハ本人及請人
ノ資産ヲ盡スマテ辨償可爲致事

規則附錄第十四條寫

一 爲替預リ金ハ都テ準備金ト看做シ候條是ニ生スル不都合ハ規

則第十二條ヨリ十七條迄ニ照シ處分可致事

右何レモ概畧寫ニ候エハ文誤計ガタリ此段御斷奉申上置候

第壹條

郵便爲替法ハ官ノ設置ト雖其事務原由ハ相對上ニ止ル所以ハ規則ニアル請書ノ如ク官金御下ケテ不願自金ヲ資本トシテ取扱爲替拂渡多分タリトモ自金ヲ出金ナシ不差支繰渡シ方ヲナズ亦茲ニ振出シ多數ニテ自然過タルトハ規則條ニ依リ本寮ヨリ可納達シアル迄ハ其金畢竟有財物ト看做テ然ラシム故ハ保證ノ如クニシテ素々貨モ借用セザルニ其縣廳ニ抵當品ヲ取置カル、之レ此爲替方法ニシテハ如何程ノ引負難出來モノト見込アツテ素々之レヲ取置レル此証ノ文中ニ不正ノ儀有之トアル此不正ハ過金タルモノ私ニ使用シ其引負金償ヒガタキニ至ツテハ此抵當品ヲ賣却シ其代金ヲ以償シ

メソノ法タルハ規則十七條及保證等ニテ知ル處ナリ夫レ之レヲ推考ナスニ必償還ノ念アルモノナルヲ以テ相對上ニ止ルニ適セリ

第貳條

此爲替ノ法ハ係ル引負起ラシト難計事務ナレハ起リ是は諸補償ナスヲメソ抵當物ナリ其所以ハ保證及抵當証ノ定文ニ做テ抵當物ヲ賣却シ不足ナルトハ本人及請人ノ資産盡ス迄ナリ之レ規則十七條中ニ本人犯シタル私ニ融通金トアル此犯シタルハハサシテ係ル犯罪ナリ果シテ然ラハ其十七條ノ處分ニ止ル

第三條

保證表文中ニアル規則等ニ相背トハ御定法ヲ通り處分御座可有其證トシテ何品縣廳ニ差入有之云々此相背トハ係ル引負等ト之レニ籠ルナリ是抵當証面ニテ知リ其末規則第十七條ニ止マレリ

第四條

明治九年五月ニ至リテ商法資金貧乏ナシ既ニ家宅等ヲ以金融セン
 欲セ下其家宅ハ爲替扱中引負ヲ生スル際其償ノ爲規則ニ基キ
 縣ニ抵當ニ渡シ有之ナレバ是ヲ以テ他ニテ金融ナスコ能ク折柄
 爲替取引盛シトナルニ應シ亦過金モ日コ増此過金タルハ可納際迄
 ハ拂渡方ヲ不差支様ナシ其未納ル期迄ニ商業上ヨリ輯ル金ヲ以テ
 補ヒ候エハ差支ト思ヒ亦自然金調ナラザルニ至ラハ元來差入レテ
 抵當品ヲ以テ償補ナセハ足ルコト一時使用ナセシ折柄縣ヨリ
 突然臨時検査ノ節我レ不在中ニシテ其都合ヲムツシ遂ニ流用候丁
 發覺セリ然ラハ其爲替規則十三條ニ照シ科セラルハ至當ナラン
 歟

第五條

監守自盜ノ裁決不適ナル所以ハ斯ナル際ニ求刑ナナスモノナレバ素
 々抵當及保證等官ニ取置ルハ不情理ナリトス何等ノ爲ニ規則十
 二條ヨリ十七條迄ニ照シ處分スヘシト附録十四條ニ定款セラレタル

第六條

前五條明細陳述ナク如ク爲換過金預リハ官ノ準備金ニ適スコ不覺
 加之監守人ノ稱モ不覺不服ナリ果シテ之レヲ準備金預リト看做キ
 ハ規則附録十四條ノ處分ニ止ルナリ左ナクハ此十四條ニアルニ照
 シ處分可致トハ何ヲ指シテノ法定ナリ

第七條

口供申渡ノ際其文中ニ官金ヲ使用スル者トアル且亦賍金ノ賸次ニ
 翌月三日ヨリ十日迄ニ入金ノ分ヲ以テ補ヒ候キハ納メ方ニ差支無
 之トアル是等ノ賸次其意不得ニ付速座ニアツテ言ハ兼テ書面ヲ以

陳述ナシタル如ク抵當証規則ノ廉ハ如何可相成哉ヲ尋問ニ及テ處
 係ル犯罪ハ余ノ罪上ハコトニシテ其嚮キニ抵當及約定書等ノ之ヲ
 規則モ有之ナシ六此口供ニ捺印以上罪ノ有無ヲ探ル其止ナラテハ
 尋問ナズ竊如何ト難申様被仰聞候ニ付只假口供ト心得捺印ナズ
 追テ正口供ノ際決問ニ可及ト心得居候處七月二日罰文被申渡驚入
 候最斯悲愁殘セシカ爲四月十七日御調ノ節監守自盜ニ引宛ラレテ
 少御尋問ト推考仕其意不徹シテ直チニ書面ヲ以不適以廉陳述シ
 タル處追而此儀御沙汰ノ由被仰聞候ニ付何レ處分落決前ニハ陳述
 ナシタル廉々徹不徹ノ御沙汰アラント心得居候處其後一應ノ御沙
 汰モ無之シテ七月二日突然罰文被申渡實以悲歎仕依テ上告ナスト
 基發仕候御尋問ニ及テ御調ノ節監守自盜ニ引宛ラレテ
 明治九年五月入檻ナル後堺縣庶務課ニ陳述ナシタル如クハ自分係ル犯

罪ノ末ハ爲替規則ニ照シ處分蒙リ余タル求刑ナルコ無之ト陳述ナ
 セシ處其儀上申ナズ迄ニシテ勿論ナリ然リト雖詐僞セシ見込有ル
 ナリ以テ爲替規則ニ照シ處分ナシガク上アツテ警保課ニ廻附ナル
 依テ同課ニテ規則通りニ扱ヒ詐僞ナセシ廉無之ト答問ナセシ處既
 ニ十年十一月ニ至リ詐僞ノ情無之段明瞭セリ然ラバ庶務課ニ復渡
 ニ相成度同課ニテ爲替規則ニ照シ處分可蒙準序申立候處此爲替規
 則十三條ニ罰金ノ科名アリ罰金ヲ科スハ庶務警保兩課ノ權ニアラ
 ス裁判課ノ權アリ茲ヲ以テ同課ニ附廻ノ由被仰聞承伏ナシタル然
 ルニ前七條ノ如ク四月十七日裁判官御尋調ノ次第ハ大ニ抵牾セリ
 其意不得依テ此儀書面ヲ以陳述ナセリ管ニ其末ハ爲替規則ニ照シ
 御處分ナルモノト推考罷在候處遂ニ明治十一年七月二日案外監守
 自盜ニ依リ懲役終身被仰付候段甚不服ニ付再ヒ御取調ノ程伏テ奉

上告候以上
 自分儀七ヶ年前發病シ後變病ス遂ニ四ヶ年前ニリ手足腰ノ骨節ヲ
 痛ムル既ニ治シガタキ疾ト相成ル然ルニ三ヶ年前ヨリ入檻相成ル
 後十年七月ニ至リ増々骨節ノ痛相募リ遂ニ歩行ヲ止ル剩ニ八月ニ
 熱病ニ取合ヌ旁々以責附ナル熱病ナルハ暫間ヲ經恢復ナスト雖モ
 從來疾病猶モ相募リ既ニ片足自由ナラス片手腰ノ骨節ヲ痛ムル醫
 師診斷ニハ治療ノ期無覺束故ヲ以病中ナカラ御調ヲ蒙リ度ト出願
 ナス依テ責附ノ儘尋調ヲ蒙リ罷在候處四月十七日亦ノ入檻相成ル
 ト雖引出シノ際杖或ハ肩ニ繼リ官庭ニ罷出居候右ニ付處分落決ノ
 前ハ必ズ病生檢査可有御座ト存罷在候處一應ノ檢査モ無之ニテ懲
 役ノ御處分被仰渡候然リト雖迎モ此姿ニテハ一日ノ懲役モ難相勤
 茲ヲ以テ癡疾者處分ノ御振有之儀ニ候エハ病疾御檢査ノ上其御處

分蒙リ度伏而奉懇願候以上

大審院ニ於テ裁判スルコ左ノ如シ

上告ノ主點

上告人吉田耕太郎カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス
 郵便爲替準備金ヲ私ニ流用セシハ郵便爲替取扱規則ニ依リ處分
 セラル可キヲ監守自盜ヲ以テ論セラレシハ不服トシテ

辨明

耕太郎ニ於テハ郵便爲替取扱規則ニ依リ罰セラレ可キヲ監守自盜
 ヲ以テ論セラレシハ不服トシテ旨申立レ居郵便爲替取扱規則ハ驛遞
 局ト郵便取扱役トノ間ニ於テノ約定ニ止マル者ニシテ一般ノ公布
 ニアラサルニ由リ裁判官ニ於テ之ヲ以テ罰ス可キ者ニアラストス
 左ノ如ク耕太郎カ郵便爲替準備金ヲ管守シナカラ私ニ之ヲ使用セ

シ上ハ國法ニ依リ賊盜律監守自盜條ニ凡監臨主守自ラ監守スル所ノ財物ヲ盜ム者ハ首從ヲ分タズ贓ヲ併セテ罪ヲ論シ竊盜ニ三等ヲ加フトアルモ此ノ以テ論セサルヲ得サル者トス故ニ大坂裁判所堺支廳ニ於テ耕太郎カ罪ヲ斷スルニ監守自盜ヲ以テ論シ贓金百五拾圓以上懲役終身ニ處シタルハ不適當之裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十一年七月二日大坂裁判所堺支廳ニ於テ吉田耕太郎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀ス可キ理由ヲ依リ上告狀却不スル者也

第三百五十八號

○判文酒類犯即リ件明治十二年六月七日上告
明治十二年九月廿五日判決

大分縣豐後國玖珠郡山

浦村平民酒造稼

河野世藏

明治十二年四月二十八日

右世藏カ明治十二年四月二十六日熊本裁判所管内豆田區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

自分儀父五十八年母四十九年妻男子一人女子一人方リ文字ヲ識ル

清酒拾七石九斗八合

此代價金百拾壹圓四拾錢貳厘

但壹升ニ付金六錢五厘

右ハ自分儀明治十一年舊三月ヨリ同年舊八月二十二日迄大分縣豐後國玖珠郡戸畑村平民佐藤芳三方ヨリ追々三買入シタル清酒ニ御

座候處明治十一年八月日不覺下旬迄ハ卸小賣ノ兩商致居候ニ其以後ハ右買入レタル石數モ相減候ニ付明治十一年十一月四日迄處ハ全ク小賣而已致來候事

前條ノ通り卸小賣致シ其後明治十二年三月中日不覺釀酒御檢査ノ官員御出張ノ際明治十一年九月ヨリ酒造職致居候モノト雖モ他ヨリ請賣ノ義ハ無鑑札ニテハ出來不申且明治十一年九月以前ニ買込タル清酒ト雖モ其以後ニ買却不相成旨御説諭ニ依テ實ニ奉恐縮候事

明治十一年九月御布告以前ニ買入レタル拾七石九斗八合ノ清酒ニ付御布告後ニ無鑑札ニテ買却致候共宜敷義ト奉存居候ハ全ク私不注意ヨリ買捌キ候義ニ有之奉恐入候事

明治十二年四月二十三日豆田警察署へ差出シタル手續書并ニ明治

十二年四月二十四日常御廳へ差出シタル手續書ノ通り聊相違無之

候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年五月二十九日熊本裁判所管内豆田區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方義審問ヲ遂ル處原告官罪証トスル明治十一年陰曆三月ヨリ同年陰曆八月二十二日迄追々大分縣豊後國玖珠郡戸畑村平民佐藤芳三ヨリ買入レタル清酒拾七石九斗八合請賣免許鑑札ヲ受ケヌシテ卸小賣ヲナシタルハ酒造稼人ト雖モ酒類稅則ニ違背シタルモノトナスモ之ヲ法律ニ照ラスニ明治八年第二十六號公布酒類稅則第一則追加明治八年第百二十二號布告第六條ニ酒造營業免許ノ者ハ自巳釀造外他ヨリ買受ケ釀造場ニ於テ賣捌トモ更ニ請賣營業稅上納ニ不及トアツテ其改正明治十二年第二十八號布告酒造營業免許

者ハ何種類ヲ問ハズ他家ノ造酒ヲ買受販賣スルニ於テハ請賣營業
 税可相納事トアリ在スレバ素ト酒造營業免許ノ者他買受買入レ賣
 捌トモ請賣營業税上納並ニ請賣免許鑑札ヲ受テハキトテ明文ナク
 シテ其改正ノ布告タルヤ請賣營業税ヲ納ムヘキトテ明文ナク
 シテ酒造免許ノ者請賣免許鑑札ヲ受テハキトテ明條ナキヲ以テ罪
 之間フヘキナシ依テ釋放スル事ハ其旨ニ依テハ其旨ニ依テハ其旨ニ
 大分縣豆田警察署長代理十等警部太田全太郎於テ右ノ裁判ヲ不
 法ナリトシ明治十二年六月七日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出
 シタル上告狀左ノ如シ

大分縣豐後國玖珠郡山浦村平民河野世藏明治十一年陰曆三月
 同年陰曆八月廿二日迄同縣同郡戸畑村平民佐藤芳三ヨリ漸次
 買入レタル拾七石九斗八合ノ清酒ヲ請賣營業免許鑑札ヲ受テシテ

擅ニ同年陽曆十一月四日迄販賣シタルヲ以テ大分縣収税掛等外三
 等出仕加藤先人ノ開申ニヨリ明治十二年四月十二日本縣八等屬香
 月照三ヨリ當豆田警察署ニ告發シタリ依テ世藏ヲ審糾スルニ明治
 十一年陰曆三月ヨリ同年陰曆八月迄拾七石九斗八合ノ清酒ヲ買入
 卸小賣ナシタリ爾後其石數ノ減少ナルヨリ明治十一年陽曆十一月
 迄偏ニ小賣而已ナシタル旨明治十二年四月廿三日當豆田警察署ニ
 差出タル手續書ニテ判然タリ由是觀之レハ芳三ヨリ買入レタル清
 酒ノ卸小賣ナシタルハ酒類税則第一則第六條ノ改正以前ニアレバ
 雖モ明治十一年十月以後ニ至リ殘余ノ清酒ヲ販賣スルハ其改正以
 後ニ係ルヲ以テ之レヲ該税則ニ照スル第三則第四條ニ該ル見込
 以テ明治十二年四月廿三日熊本裁判所管內豆田區裁判所ニ求刑ナ
 シタル處明治十二年五月廿九日同裁判所ニ於テハ酒類税則第一則

第六條明治十一年第二十八號改正公布ニ酒造營業免許ノ者何種類
 ナ問ハス他家ノ造酒ヲ買受販賣スルニ於テハ請賣營業稅可相納事
 トアリテ該稅則中別ニ酒造免許ノ者他家ノ造酒ヲ買受販賣スル者
 ハ請賣免許鑑札ヲ受ヘキトシ明文ナキヲ以テ罪ノ問フヘキナシ依
 テ釋放ス下裁判宣告ヲナシタリ抑モ酒類稅則第一則第六條改正公
 布ニ酒造營業免許ノ者何種類ヲ問ハス他家ノ造酒ヲ買受販賣スル
 ニ於テハ請賣營業稅可相納事ト而已アリテ別ニ請賣免許鑑札ヲ受
 クヘキトノ明文ナシト雖モ其改正ノ第六條ハ第一則ノ第六條ナシ
 ナ以テ酒造免許ノ者請賣營業ヲナサント欲セハ第一條ニヨリ管轄
 廳ニ出願セサルヲ得ス而シテ該營業ノ許可ヲ得タル証トシテ管轄
 廳ヨリ免許鑑札ヲ受ケ而ル後ニ營業スルニ非ラサレハ毫モ販賣ス
 ル能ハサル者ナランカ然ラサレハ該犯世藏ノ如キ營業稅ヲモ納メ

ズ免許鑑札モ受ケス筈ニ密賣スル者ハ何ナ以テ之ヲ防クヲ得ン
 ヤ果シテ然ラハ世藏カ明治十一年陰曆三月ヨリ同年陰曆八月迄佐
 藤芳三ヨリ若干ノ清酒ヲ買入レ卸小賣ヲナシタルハ酒類稅則第一
 則第六條ノ改正以前ニ係ルヲ以テ該稅則ノ免ル所ナリト雖モ延
 テ同年陽曆十月以後ニ至リ殘余ノ清酒ヲ小賣ナシタルハ其改正ノ
 後ニ涉ルヲ以テ則酒類稅則第三則第四條ニ該ル犯則者ト云ハサル
 ナ得ス然ルヲ熊本裁判所管內豆田區裁判所ニ於テハ止タニ明文ナ
 シトシテ釋放ノ裁判ヲ言渡シタルハ其當ヲ得サル者ト認メ則チ上
 告スル理由ナリ

大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ明治十二年七月十日ヲ以テ大審院ニ
 處分ヲ求メシト左ノ如シ

該犯酒造營業免許ノ者ト雖モ請賣營業ノ免許ヲ受ス擅ニ他ノ清酒

ヲ買入レ御小賣ヲナスハ酒類稅則第三則第四條ニ依リ一期營業稅
 五倍ノ科料ニ處スヘキ者トス然ルニ熊本裁判所管内豆田區裁判所
 ニ於テ明治十一年第二十八號布告酒類稅則第六條改正ニ酒造免許
 ノ者請賣免許鑑札ヲ受クヘキトノ明條ナキヲ以テ罪ノ問フヘキナシト
 シ釋放セシハ大分縣警部意見ノ通裁判其當ヲ得ザルモノト考量ス
 大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

辨明

河野世藏カ明治十一年陰曆三月ヨリ明治十一年陰曆八月迄佐藤芳
 三ヨリ拾七石九斗八合ノ清酒ヲ買受ケ御小賣ヲ爲シタルハ明治十
 一年第二十八號公布ヲ以テ明治八年第百二十二號布告酒類稅則第
 一則中追加第六條ヲ改正セラレタル文ニ酒造營業免許ノ者ハ何種
 類ヲ問ハス他家ノ造酒ヲ買受販賣スルニ於テハ請賣營業稅可相納

事トアル公布以前ニアリト雖モ明治十一年十月以後ニ至リ右賣捌
 キ殘リノ清酒ヲ小賣セシハ右酒類稅則第一則第六條改正ヲ公布以
 後ニ係ルヲ以テ酒類稅則第三則第四條ニ免許鑑札ヲ受ケテ請賣營
 業致シ候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事トアルニ依リ酒類稅
 則第一則第一條中ニ酒類請賣營業稅金五圓トアルニ照シ二期營業
 稅五倍ノ科料即チ金二拾五圓ニ處ス可キ者トス然ルニ熊本裁判所
 管内豆田區裁判所ニ於テ釋放ノ裁判ヲ爲シタルニ上告人カ論述ノ
 如ク不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十二年五月二十九日熊本裁判所管内豆田區
 裁判所ニ於テ河野世藏ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ酒類稅則第三則第四條ニ依リ一期營業稅五倍ノ科料ヲ科シ

科料金貳拾五圓

第三百五十九號

○判文官印偽造ノ件 明治十二年五月十日上告
明治十二年九月廿五日判決

栃木縣下野國安蘇郡上

彦間村平民

田島助三郎

明治十二年五月
二十八年八月

平民

神山倉吉

明治十二年五月
二十六年六月

右助三郎倉吉カ明治十二年五月二日水戸裁判所栃木支廳ニ於テ審問
ヲ受ケタル日供左ノ如シ

自分共儀今般公判ヲ受候犯狀之儀ハ明治十二年四月十日栃木縣警
察官ノ面前ニ於テ申立候口供之通り少シモ相違無之候事

助三郎カ警察官ノ吟味ヲ受ケシ口供

自分儀不仕合打續キ貧究罷リ在ル折柄本年一月下旬同村提箸新作
方ニ用事アツテ相越シタル處同人儀モ同様貧究ノ趣キニテ共ニ困
究ノ嘶杯致シタル末地券狀ヲ偽造シテ金借融通可致ト相談及ヒタル
處速時承諾シタルニ付彼ノ日ハ其ノ儘相別レ翌月六日又々新作方
ニ相越シタル處右新作ヨリ申サレタルニハ過日相談ノ地券狀偽造
一件ハ同村神山倉吉ニモ相談致シタル處同意致シタル故早速田沼
宿ニ相越シ偽造可致トノ儀ニ候得共自分ハ他ニ色々用事有之故其

旨申聞タル處新作倉吉ノ兩人ハ明七日田沼宿へ相越テ趣キニ依リ
 自分ハ同月十三日ニ相越テ事ニ約定シテ相別ニ夫レヨリ所ニ用事
 ナ濟シ十三日ニ至リ田沼宿田沼屋嘉吉方へ相越テ新作倉吉兩人ニ
 面會シタル處印章判本等ハ新作ニ於テ概零彫刻致シタル趣キニヨリ
 自分ハ直ニ佐野町ニ相越シ同夜福田屋ニ申貸座敷ニ登樓致シタ
 ル處翌朝ニ至リ圖ヲ示シ同村阿部傳三郎ニ面會致シ互ニ貧究共テ困
 ル杯啾合ヒタル末同人儀ハ會テ惡意ヲ著シ付右偽造地券狀ニ金借
 致シタル節ハ少ク位ハ用立遣テ可ク存シ同人ニ金圓借用スル存
 シ寄リハ無キ哉ト尋テ然ル處是非共借用致シ度旨申付然ラハ自
 分ハ同宿旅店高橋萬藏方ニ待テ居ルニ付御苦勞ヲカテ田沼宿ニ行
 イテ新作倉吉ノ兩人ヲ連レ參リ吳レ候様頼ミタル處承諾シテ出行
 キタリ仍テ自分ハ外用事ハ爲メ足利郡大月村川田溝藏方ニ相越テ

同日午後五時頃右高橋萬藏方へ參リタル處最早右三人ノ者ハ參リ
 居タリ依テ様子ヲ尋テタル處右兩人ヨリ傳三郎へ地券狀偽造一件
 ナ相談及ヒタル處傳三郎ニ於テハ右偽造ニ加入スルハ迷惑ナレド
 右借用シタル金圓ヲ轉借致シ度旨申サレタル趣キ承知致シタリ夫
 レヨリ都合四人ニテ一室ニ籠リ自分并新作倉吉三人ニテ神山倉吉
 名前入地券狀九枚ヲ偽造シタリ右九枚ノ内五枚ハ自分筆記シ外四
 枚ハ新作ニ於テ筆記シ印章等ハ新作カ彫刻シタル印ヲ押捺シ然リ
 夫レヨリ新作倉吉兩人ニテ同町正田治郎右衛門方ニ參リ地券証抵
 當ニテ金借ノ儀聞合セタル處他ニテ聞合セ遣テ可ク旨申サレタル
 趣キニテ飯宿ニ翌朝又々右兩人ニテ相越シタル處調達不相成趣キ
 斷ハラレタリ仍テ傳三郎ハ同日飯村致シタリ猶ホ他ニ聞合テ可ク
 相談致シタリヒ猶考フルニ甚テ宜シカラサル儀ハ存シ右偽造

地券狀ハ破毀致ス可クト新作倉吉へ相談及ヒタル處何レモ同意致シタルニ付自分ニ於テ筆記シタル地券狀五枚ハ自分受ケ取り外四枚ハ倉吉ニ於テ受ケ取り印章判不等ハ新作ニ於テ受ケ取り何レモ燒キ捨ツル約定シテ相別レタリ夫レヨリ自分ハ東京ニ用事有之罷リ越ス途中上州小島村ノ渡船場ニ於テ寸々ニ裂キ破リ押シ流シ出京シテ用事ヲ濟マシ飯村罷在リ候處三月十五日村内ニ於テ御捕縛相候成事

別紙口供

問 其方地券狀ヲ偽造スルニ印章判木等ハ如何シテ彫刻シタルヤ
答 夫レハ自分并提箸兩人相談ノ上新作ニ於テ他ノ地券狀ヲ摸寫シテ偽造シタルモノニ御座リマス
問 何ニ彫刻シタルヤ石ナル歟將タ木ナルヤ

答 (地券証)右検査之上授與之(栃木縣令鍋島幹)小属白石磨受付
此ノ四ヶ所ハ木ニ彫刻シ其他割印并授與之ト有之處へ押捺スル印縣令名下ノ印受付ノ印都合四ツハ蠟石ニ彫刻致シマシタ
問 右眞正ノ地券狀ヲ摸寫シテ之レヲ彫刻スル等ノ錢ヲ神山倉吉
答 相談致シマセン
右之通相違不申上候以上
倉吉カ警察官ノ吟味ヲ受ケシ口供
自分儀同郡田沼宿ニ負債有之嚴敷催促ヲ受ケ困却シタルニ付曾テ懇意ナル同村提箸新作ニ申譯ケシテ貰ハント存シ本年二月五日右新作方へ相越シタル處右新作儀他ヨリ金圓借用ノ口アル故借用シテハ如何ト申ニ付是非借致シ度ナレト夫レハ何レナルヤト尋

テタル處容易ニハ斷シ難シト申スニ付不審ノ義ト存シタル其日ハ
 歸宅致シ翌早朝又々相越シ尋テタル處地券狀ヲ偽造シテ佐野町ヨ
 リ金圓ヲ借用スヘシトノ相談ニ付不正ノ事ト存シタル其日自分困
 究ノ折柄ニ付同意致シタル處然ラハ田沼宿ニ參リ偽造スヘシトノ
 義ニ付翌七日田沼宿ニ相越シタル尤モ新作ハ自分ヨリ一步先キニ
 參リ自分ハ午後二時頃該宿田沼屋嘉吉方へ參リタル處新作義自宅
 ニ於テ印章等彫刻致シタル趣キニテ指示サレタリ尤モ其内檢査ノ
 上授與之ト有之處へ押捺スル印形一顆不足ノ趣キニテ自分ニ右印ヲ
 彫刻スル石ヲ買來レト申スニ付佐野町ニ行キ小田切トカ覺ヘタル
 藥種店ニテ蠟石一ツヲ買求メ參リテ相渡シタル處新作義右石ニテ
 印章彫刻致シ居ル内同月十三日ニ至リ田島助三郎義モ參リタル
 佐野町高橋方ニ於テ待居ル趣キニテ直チニ佐野町ニ相越シタル

リ仍テ自分共ハ本夜嘉吉方ニ泊リ居タル處翌朝同村傳三郎ナル者
 助三郎ヨリ頼マレタル趣キニテ迎ニ參リタル故同道ニテ佐野町高
 橋方藏方へ相越シ居タル處傳三郎義助三郎ヨリ金ヲ借用スル杯ト
 ノ義ヲ申スニ付右地券狀偽造ノ義ヲ助三郎ヨリ斷シタル事ト思ヒ
 自分共ヨリモ共ニ偽造致スヘシ旨相談及ヒタル處傳三郎義ハ右偽
 造ニ連加スルハ迷惑ナレトモ右地券狀ニテ借り受ケタル金圓ヲ借用
 シ度旨申サレタリ然ル處同日午後五時頃ニ至リ助三郎モ參リタル
 ニ付右一件詳細相斷シタル上右一同一室ニ籠リ自分持名前ノ地券
 狀九枚ヲ偽造シタル内四枚ハ新作義筆記シ外五枚ハ助三郎義筆記
 シ印章ハ何レモ新作カ彫刻シタル印ヲ押捺セリ尤モ傳三郎ハ只傍
 テニ觀テ居タリ夫レヨリ自分ハ地券狀名前主ノ事ニハ新作ニ同道
 シテ同宿正田次郎右衛門方へ金圓借用方問合ノ爲メ相越シタル處

金圓ハ本家ニ於テ貸スモノ故聞合セ遣ス聞明朝參ルヘシト申サレ
 タリ依テ翌朝又々兩人ニテ相越シタル處調金相成ラサル趣キ斷ハ
 ラレタルニ依リ止テ得ス歸宿致シタル處傳三郎義ハ即日飯村致シ
 自分共三人ハ猶他方ヲ周旋シテ金借致サント相談致シ居ル内田島
 助三郎義右ハ甚々宜シカラサル事柄ニ付金圓借用ノ義ハ止メニシ
 テ右偽造シタル地券狀ハ燒キ捨ツヘントノ發言ニ何レモ同意致シ
 右偽造券狀九枚ノ内五枚ハ助三郎ノ書記シタル者故同人義携ヘ
 外四枚ハ自分ニ於テ携帶シ印章判木類ハ新作ニ於テ不殘携ヘ銘々
 相別レタリ夫レヨリ自分ハ飯宅致シ同月二十日頃ト覺ヘ右地券狀四
 枚共自宅ニ於テ燒キ捨テ候事其後三月十四日用事アリテ足利町ヘ
 相越ス途中足利警察署探偵方ニテ姓名知ラサル者一人外二人道連
 レニ相成リ名草村氏名知ラサル烹賣酒屋ニ於テ休息シタル處同所

ニテ右探偵方ヨリ前地券狀偽造ノ廉詰聞セラレタルニ由リ明瞭申
 述ヘタル處即時足利警察署ヘ御拘引相成候事
 右ノ口供ニ依リ明治十二年五月三日水戸裁判所枋木支廳ニ於テ左ノ
 裁判ヲ申渡シタリ

田島助三郎

其方儀提箸新作及ヒ神山倉吉ト申合セ借金ノ抵當ニセン爲メ地券
 証ヲ詐爲シ未タ施行セサル科詐爲官文書條ニ依リ懲役一年半ノ處
 情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役百日申付ル

神山倉吉

其方儀田島助三郎ノ造意ニ因リ提箸新作ノ勸誘ニ從ヒ地券証ヲ詐
 爲シ未タ施行セサル科詐爲官文書條ニ依リ懲役一年半ノ處情法ヲ
 酌量シ三等ヲ減シ懲役九十日申付ル

朽木縣七等警部中隈輝雄ニ於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十二年五月十日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告ノ趣旨左ノ如シ

抑該犯ノ罪狀タル大藏省ヨリ下附ノ印縣印券証ニ割及ヒ縣令屬官ノ印ヲ偽造シ以テ地券証ヲ詐爲シタル者ナレハ偽造印ノ廉ハ偽造官印條ニ依リ省臺察司府藩縣ノ印ハ流一等餘少印ハ徒一年トアルニ依リ論シ縣印及ヒ餘ノ印ヲ偽造スルノ三罪也其偽造ノ印ヲ押用シテ神山倉吉名前ノ地券証ヲ詐爲シタルハ詐爲官文書條省臺察司府藩縣ノ文書ハ二等ヲ減ストアルニ依リ論ス可キ縣文書詐爲ノ一罪也右三罪併發スルモノナルニ依リ二罪俱發以重論條ニ照ラシ一ノ重キ偽造官印條第一項ニ依リ懲役五年未タ行使セサルニ依リ一等ヲ減シ田島助三郎ハ懲役三年神山倉吉ハ從タルヲ以テ又二等

減シ懲役二年半ノ處主從共猶ホ事情ヲ原諒シ減等スルヲ適當ノ裁判トス然ルニ該裁判所ニ於テ法律ニ明文ナル印類偽造ノ罪ヲ問ハスシテ單ニ文書詐爲ノ罪ノミ論セシヲ以テ不當ノ裁判ト言ハサレヨ得ヌ依テ上告スル所以也

大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ明治十二年六月六日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシヨ左ノ如シ
該犯共地券証ヲ詐爲スルト縣ノ印ヲ偽造スルハ三罪俱發一ノ重キ詐僞律偽造官印條縣ノ印ヲ偽造スル者ニ擬シ田島助三郎ハ懲役五年神山倉吉ハ從ナルヲ以テ懲役三年ニ處スヘキモ未行使セサルニヨリ各一等ヲ減シ助三郎ハ懲役三年ニ倉吉ハ懲役二年半ニ處斷シ猶其自ラ悔悟シ既ニ行使ヲ停止斷念スルヲ以テ酌量輕減スヘキ情狀有之モノトス

大審院ニ於テ裁判スル丁左ノ如シ

辨明

助三郎カ縣印及ヒ地券狀ヲ偽造シ其地券狀ハ發覺前自テ毀棄又ハ燒棄シ其發覺ノ時迄仍テ之レヲ所持シ未タ其之レヲ行使セサルモノト云フヘキ譯ニ至ラサルモノナレバ其罪ノ問フヘキナシト雖モ其縣印ヲ偽造シタルノ廉ニ至テハ助三郎カ口供ニハ共犯提箸新作ナル者右偽印ヲ毀棄スヘキ筈ニシテ之レヲ受取シトアレトモ右新作ハ其儘逃亡毀棄ノ有無更ニ其証明ナラサルモノナレバ右縣印偽造ノ廉ハ則チ詐偽律偽造官印條凡官ノ印ヲ偽造スル者ハ云々縣ノ印ハ流一等トアルニ依リ懲役五年ノ處未タ其行使セサルモノニ付同律ニ未タ行使セサル者ハ各一等ヲ減スルトアルニ依リ懲役三年ニ處斷スヘキモノトス然リ而シテ助三郎カ口供ニ猶考フルニ甚タ宜

シカラサル儀ト存シ云々印章判本等ハ新作ニ於テ受取リ云々トアル供狀ハ一体ニ其輕減スヘキ情狀アルヲ以テ明治七年十二月十八日太政官第三百二十四號布告凡罪ヲ斷スル正條アリト雖モ所犯情狀輕キ者ハ仍ホ情法ヲ酌量シテ輕減スルコトヲ聽シ減シテ五等ヲ過ルコトヲ得ストアルニ依リ本罪懲役三年ヨリ五等ヲ減シ懲役百日ニ處斷スヘキモノトス

倉吉ハ助三郎ノ從ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役二年半ノ處情法ヲ酌量シ五等ヲ減シ懲役九十日ニ處斷スヘキモノトス

然ルテ水戸裁判所枋木支廳ニ於テ助三郎並ニ倉吉カ罪ヲ斷スルニ縣ノ文書ヲ詐爲スル罪ノミヲ以テ詐爲官文書條ニ依リ情法ヲ酌量シ助三郎ハ懲役百日倉吉ハ懲役九十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト雖モ助三郎倉吉カ受ケシ刑ニ於テハ差違ナキヲ以テ破毀ノ

限ニ非ストス
判決

右ノ如クナルニ因リ明治十二年五月三日水戸裁判所枋木支廳ニ於テ
田島助三郎並ニ神山倉吉ニ申渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニ非ストス
第三百六十號

○判文詐欺取財ノ件 明治十二年一月十日 上告
明治十二年九月廿五日 判決
京都府士族

丹波國天田郡福知山岡
川ノ村 時雄
明治十一年十一月
二十六年四月
右時雄カ明治十一年十一月十三日ヨリ明治十一年十二月四日迄神戸

裁判所姫路支廳糺問掛リニ於テ數次取調ヲ受ケ明治十一年十二月廿
日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ公判濟ノ口供左ノ如シ

明治十一年十一月十三日
自分年齢ハ二十六歳四ヶ月職業ハ士族ナルヲ以テイマタ何等ノ業
休ニモ在リ付カス候事
父母ハ皆已テニ死亡イタシ妻子ハイマタ無之宗旨ハ禪宗ニ有之候
事

自分明治六年五月中舊豐岡縣捕亡吏拜命福知山支廳詰被命爾後本
廳ニ轉シ罪案清寫ヤ學務掛等相勤候ヘ田舎ニテハ十分ノ修業ニ
モ不相成ヨリ三府五港ノ内ヘ出仕致度志願ヲ以テ明治八年五月中
辭職致シ候事
兵庫縣ニハ知己ノ者モ有之ニ付同月中國許出立神戸ニ罷出六月十

二三日頃同縣邏卒拜命イタシ候事
然ル處脚氣ニテ相泥ニ巡邏奔走ノ勤ハ不相成ヨリ無止事同月晦日
辭職ノ上歸郷イタシ候事
同年八月中八年明治當姫路ニ天然社ト唱ヘ候測量代書等ノ引受ケ社有
之右社員ニ朋友ノ者モ加ハリ居候付當所ヘ罷越シ自分モ加入致シ
候事

同社モトント思ハシキヲ無之ヨリ同社ヲ去リ獨立又ハ同志ノ者三
四人ト申合訴訟ノ代書罷在候事

其翌明治九年十一月ノ末神戸ヘ移リ同所共立社ヘ加入イタシ松野
嘉一郎方ヘ寄留罷在候事

右社ニ罷在候内明治十年五月中兵庫縣二等巡查拜命イタシ候事
然ニ本年四月十一日一年明治十事故アリテ辭職イタシ候事

右事故ト申ハ自分同所ニ私通ノ婦人有之候處同僚ノ堀勝藏ト申者
右婦人ノ事ヨリ自分ヘ對シ亂暴ニ及ヒ候ヨリ其旨當直ノ警部ヘ以
書面届出候處同僚ハ直ニ免職ニ相成自分モ旨ヲ諭サレ辭表差出シ
免職ニ相成候儀ニ御座候事
但亂暴トハ自分ノ下宿ヘ婦人來リ居候處堀ナル者突然入り來リ
此女ハオレノ女房ニスル内約アリ然ルチ人ノ下宿ニ來テ居ルハ
不埒也トテ無二無三ニ引立ントスルニ付自分傍ヨリ相宥メ候處
却テ罵詈惡口致シ散々ニ打起リテ立去リ其足ニテ直クニ婦人ノ
親里ヘ至リ又々暴行ニ及ヒ候次第ニ有之候事
辭職後モ同所ニ滯留イタシ已前ノ如ク裁判所ノ代書ヲ致シタリ又
ハ大阪ヘ罷越シタリ彼是イタシ候テモ思ハシキヲモ無之折柄兼テ
知己ナル中治理ト申者カ大阪ヤ神戸ハ物價モ高ク且人氣モ宜シカ

不寧口姫路へ移リテ何ヨ相應ツ商法ヲ相始メ候方可然ト共々本年
 明治十八月下旬當所へ罷越候事
 商法ヲ申シテ別ニ是ト云フ目的モ無之候得共中治理ハ骨董類掛物
 ノ軸モノナト取扱候ニ付自分モ何ツソシテモ致ソウカト存候
 儀ニ御座候事
 中治理ハ自分同藩ニテ昔ガテ懇意ノ者ニ御座候同人ハ姫路本町ニ
 テ一戸ヲ借受ケ寄留イタシ自分ハ同時藤井大藏下申旅籠屋ニ止宿
 イタシ候事
 但當所へ參リ候ヘ馬ノ夕日モ淺ク且差向見込モ無之ヨリ何等
 フ商業ニモ不取懸候事
 突粟郡西山村石原文兵衛ト申者ハ元々知り合ニハ無之候奈モ自分
 九月二日ヨリ大藏方へ止宿候處三日ノ日ニ至リ文兵衛弟石原圓

藏ト申者同家へ罷越シ同宿同臥イタシ候ヨリ近クキニ相成同人等
 ヨリ訴訟事件被相託共已來懇意ニ相成候事
 右文兵衛ニ金九拾圓貸與ヘ候儀ハ相違無之其證文ニハ自分ノ好ニ
 ナテ融通使用ヲ許サ、ル預証書ニシテ受取置候事
 右金ノ種類ハ拾圓札四枚五圓札六枚貳圓札十枚都合九拾圓ニ有之
 候事
 右金ノ出所ハ自分明治八年中家祿奉還イタシ候金員ニ有之家祿ハ
 六石四斗ニ候ヘトモ其金高ハ何程テアリシヤ確ニ不覺其故ハ自分
 神戸ニテ奉還ノ願書差出候迄ニテ委曲ハ親屬北條諫ト申者へ相託
 シ資本金ノ受取方ヨリ他ノ負債辨償等ノ儀迄一切同人ニ打任セ置
 候ニ付不存儀ニ御座候事
 但其節ノ負債ハ五六拾圓ハカリモ有之哉亦不存候事

其後度々ニ拾圓貳拾圓ツ、受取旅費其他ノ諸費用ニイタシ候事
明治九年六月中奉還金遣ヒ殘ノ分悉皆受取候事

但シ其金員ハ五拾圓ノ公債証書二枚ニ有之候事

明治十一年十一月十四日

石原文兵衛ニ貸付タル証書ハ本年九月六日新道旅籠屋出淵多留彦
方ノ二階ニテ文兵衛手ツカラ同間ノ片隅へ片寄り矢立ニテ相認メ
其中半ニシテ筆カ悪ルイトカ云テ下タへ下リ再ヒ立昇リテ相認メ
候上自分へ差出候ニ付則前顯ノ金員ト引替ニ受取候事
但其節ハ大分暑サツ時分ニ付文兵衛ノ認ムル間ハ自分ハ坐敷ノ
中央ニ扇ニテ風ヲ納レテ罷在候ニ付其認ムル所ハ脇キニテ確ト
見留メ候譯ニハ無之候事
証券印紙ハ旅宿ノ近傍ニ幾ラモ有之然ルチ文兵衛持合無之ト云

フニ任セ百圓近キノ證書ヲ無印紙ノ儘受取置クハ如何ト御詰問ニ
候得共持合無之ト申ニ付印紙ハ後日ニ貼用サセテモ相濟ムト心
得受取候儀ニ御坐候事

明治九年六月中ニ受取リタル奉還金ナ何等ノ活用モナク所々持廻
リ神戸ニテ代書致候節モ巡査拜命日夜巡行致シ候節モ身ニ付ケ置
候テハ第一盜難ノ患又ハ遺失等ノ虞モ可有之且國立銀行へ預ケ置
カハ大丈夫ニシテ多少ノ利金モ可有之ヲ其儀ナク只空シク持帶候
儀ハ如何ノ心得ト被仰御尤ノ御不審ニ候へト別ニ是ト云フ商業ノ
目的モ無之且銀行杯へ預ケルコトハツイ心付カス只徒ニ心配シテ携
へ居リ候儀ニ御坐候事

其方一己ノ働キヲ以テ得タル金トモ違ヒ祖先ノ勤^{原ノ}功ニ因テ
頂戴シケル傳來ノ家祿ヲ奉還イタシ其賜金ヲ以テ子孫ノ恒産ヲ興

大ニキ極大切ノ資本金ニ付決シテ以テ輕忽ノ取扱不相成儀ハ其方
 モ得ト心得居ル筈ナリ然ルヲ大丈夫ナル銀行ハ敢テ預ケテ旅宿
 其外巡邏中モ懷中致シ居リ而シテ人情誰モ危ムヘキ只一而會ノ他
 邦人タル文兵衛ヘハ輒ナク貸與候云々イカニモ其意ヲ得難キ申立
 事情轉倒ノ所爲ナリト御詰問ニ候ヘ共文兵衛ノ人柄手堅ク相見ヘ
 切迫ノ依頼ニ付黙止難ク且僅四五日間耕地受返シテ都合ニ金子ハ
 儘ニ所持シテ居ルト云フ見セ掛ケ迄ニ借入度トノ趣ニ付万々危キ
 一ニ有之間敷ト相心得貸付候儀ニ御座候事
 右貸與ニタル金員ハ拾圓五圓貳圓ノ種類ニテ何レモ小札ニテ
 其出所委シク可申立旨被仰聞右ハ北條諫ヨリ受取タル五拾圓ノ公
 債証書二枚ヲ去ル明治九年六月中豐岡下町杉立九三郎手代六之
 介ト申者ニ同所中町旅籠屋松忠方ニテ七拾四圓ニ賣拂其金員ノ種

類ハ一々記應不致候ヘ七拾圓札四枚ト五圓札二枚其外色々ノ小札
 相交リ居リ右ノ内拾圓四枚ト五圓二枚トヲ殘シ其餘ハ諸雜費ニ使
 用イタシ其後三四圓ハカリツ、貯置候金子取合九拾圓有之此度
 貸與ヘ候義ニ御座候事
 警察ノ口書ニハ七拾四圓ハ如何様ノコトモ費用不致始終大切ニ
 所持致シ居候旨記載有之候ヘ七拾四圓ノ内貳拾四圓ハ諸雜費
 ニ遣ヒ候ニ相違無之候事
 三四圓ツ、貯置候譯ハ巡査奉職中月給ノ遣ヒ殘リ又巡回旅費ノ遣
 ヒ餘リ等ニテ凡十六七圓其他貳拾三四圓ハカリハ免職已前代書等
 ナ以テ相儲ケ候金員ノ餘リニ有之候事
 明治十一年十一月十六日
 公債証書ヲ賣拂テヨリ兵庫縣巡査拜命致候迄凡一年程ノ間ハ姫路

又ハ神戶ニテ代書イタシ相儲ケ候金員ノ残り三拾圓之レアリ候事
月給ノ残りヤ代書料ノ餘リ又ハ飲食衣服等日用物ヲ買求メタル節
ノ釣リ錢ナラハ種々錯雜ノ小札ナルヘキ苦ナリ然ルチ五圓札ニテ
四枚貳圓札ニテ拾枚打揃更ニ零札無之譯ハ如何トノ御不審ニ候處
右ハ巡查奉職中三井組ニテ取替置候義ニ有之候事

其方公債証書ヲ空シ預ケ置テハ無駄ナルコトニ付何カ商業ニ取掛
リ度含チ以テ北條諫ヨリ受取リタリト申立候ヘヒ諫ノ申立ニハ家
祿ヲ奉還シタル大切ノ資本金ニ付其方ヘ預ケ置テハ徒ニ費耗スル
チ以テ外親戚共ノ依託旁預リ置キシ處一昨九年六月中其方兵庫縣
ヘ官途ノ見込有之就テハ所々ノ負債チ片付ケサレハ奉職差支ニ相
成云々チ以テ強テ受取度旨申張ルニ因テ無止相渡シタリトノ申出
ナリ何故其方ノ申立ト齟齬スルヤトノ御詰問ニ候ヘ共自分ハ商業

ニ取掛リ度含ニテ受取タルニ相違無之諫ノ申立ハ何カ間違ニ可
有之候事

代書料ノ殘金ハ前ニ貳拾三四圓ト云ヒ後ニ三拾圓ト申立タルハ全
ク間違ニ無之三拾圓ノ殘餘金有之候ヘ共三井組ニテ取換タル金員
ハ貳拾三四圓ニ付左様申立候事

自分巡查奉職中ハ本署詰ニテ會計等ノコトヲ掌リ候ニ付三井組ヨリ
貳拾錢拾錢又壹圓等ノ小札コトテ受取他ノ巡查ノ月給諸拂等ハ右札
ニテ取置候ヘ共自分月給ノ遣ヒ殘リハ度々ニ五圓又貳圓札ニ取替
貫ヒ候儀ニ有之然レヒ度々ノ事故何月何日ナルヤ其都度々々ノ日

〔原〕ハ記憶不致候事

他邦ニ遊ヒテハ旅籠其外諸雜費モ容易ナラス且折節ハ散財モ致セシ
ト申ナカラ僅一年程ノ間ニ代書料ノ殘餘金三十圓有之トハ中々ヨキ

手際ナリト被仰候へモ全ク儲ケ得タルニ相違無之尤其月ニ因テハ
 漸ク宿代ハカリノ時モ有之候へ共又存外ノ入金有之コトモ有之但何
 月ニハ何圓アマリシト云フコトハ一々記臆不致且巡查奉職中ノ殘
 金モ右同様ニテ毎月何程ツ、アリシトハ覺テ居リ不申候事、
 其方昨年一年明治十虎狼利病ニテ姫路病院へ入院シ節其費金並遞送入
 費トモ合五圓廿五錢有之然ルニ其方兼テ多分ノ金子並所持シ居ル
 ト申テカラ斯ク纒ノ入院費金ヲ何故月賦濟ノ嘆願書ヲ差出シタルカ
 トノ御不審御尤ニ候へ共有入院金ハ官費ニテ被下候哉ノ趣モ有之
 乍併イマク御法定モ無之ニ付月賦願ヲ差出方可然トニ等巡查北村
 左市ナル者申聞ケルニ付左様イマクシテ儀ニ之レアリ候事、
 假令一等巡查カ申聞ケタレハトテ何レ損益ナキ事ニ所持金モ有之
 上ハ幾度々々モ手數シテ上納スルヨリ寧ロ一時ニ納ムレハ却テ世

話無之筈ナリ然ルヲ何故其様ニ諸面倒ナルコトナ自カラ好ソテ致セ
 シヤト御訊問ニ候へモ別ニ子細有之譯ニテラズ只ニ等巡查ヲ申聞
 ニ隨ヒ候而已ニ御座候事、
 自分元下宿神戸元町通二丁目田中武平方ニ宿料等ノ不拂金有之譯
 ニ同入方ノ老母へ或ハ貳拾錢或ハ三拾錢ハカリ、時々取換候金
 子有之右へ差引へキ積ニテ其儘ニ不マシ置候義ニ御座候事、
 姫路上白銀町旅籠屋鹿谷喜八郎方ニ止宿料六圓有之右々其儘ニ
 致置候譯ニ同人方ノ貸金ノ爲メ所々方々へ掛合等致シ遣シ其手
 數料ハ六圓餘モ有之ニ付右ト差引へキ爲メニ有之尤確ニ計算テ
 遂ケ候ハ、自分方へ受取へキ金員ハ可有之下存候事、
 姫路堅町中川瀬兵衛方寄留加藤秀貞へ五圓ノ負債有之譯ハ會テ同
 人ト申合代書致候節兩人ニテ平分ニ可致金員ヲ同人ノ依頼ニ因テ

五圓餘計ニ相渡シ候事有之ヲ以テ右ニ差引ヘキ心得ニテ今日迄其
 マ、コイタシ居リ候事
 藤井大藏方ノ止宿料ハ月末ニ至リ可拂心得ニテ罷在候處所持金悉
 皆石原文兵衛ヘ貸與ヘ手許ニハ一金モ無之夫故不拂ニ相成居候事
 其方折角貯蓄金ニ可致積リニテ小札ヲ大札ニ取替置キタル九拾圓
 ノ外ニハ壹錢ノ小遣錢モ無之スツパリ手ハタキニシテ文兵衛ヘ貸
 付ケルトハケシカラヌコナリトノ御不審ニ候ヘ共僅四五日ニテ直
 シニ返濟スルトノコトニ付聊恠マス貸與ヘ今日ニ至リ大ニ後悔罷在
 候事
 濱田次郎介方ヘ到リ文兵衛ノ證文ヲ見セ吳候様相頼タルハ相違無
 之候ヘモ文兵衛ヘハ内々ニシテ隱シ吳候様相託シタルコトハ更ニ無
 之候事

文兵衛ノ証書ヲ披見致シタル譯ハ自分ノ取置キタル証書ノ印形ト
 異同有之哉否試験致度爲メニ有之候事
 公債証書ヲ杉立九一郎ヘ賣渡シタル旨申立ツレトモ同人ハ明治八
 年十月中失跡シテ行衛知レサル者ナレハ豊岡仲町ニ店ヲ差出シテ
 居ルヘキ管ナシ且其方ノ公債証書ヲ受取タサル一年前ノ失跡ナリ
 既ニ該地ニ居ラサル者ヘ賣渡ストハ如何トノ御訊問ニ候ヘモ自分
 九一郎手代六之介ニ賣拂タルコトナレハ九一郎失踪否ノ儀ハ存不申
 六之介ヘ賣渡シタルハ相違無之候事

明治十一年十一月十九日

石原文兵衛ヘ催促ニ及ヒ候ハ本年九月十九日ノ夕方ニ有之濱田次
 郎介ヘ印形改メニ參リタルハ何日ナルヤ忘レ候ヘモ文兵衛ヘ催促
 イタシ候兩三日ノ事ニ有之候事

文兵衛へ催促ニ及ヒ候テ始テ文兵衛ニ欺カレタルヲ覺トリ候上ナ
 ラハ印形ノ眞偽ニモ氣付クヘキ筈ナルニイマダ催促ヲ致サハル前
 ハ其方ノ見テ居ル所ニテ文兵衛手ツカラ証書ヲ認メ手ツカラ調印
 シテ相渡シタルモノニ付印形ニハ疑念ノアルヘキ筈ナシ然ルチ寄
 カニ次郎介方へ到リ印形ヲ改ムル下ハ如何ノ譯ト御訊問ニ候處自
 分ハ別ニ疑ラタル譯ニモ無之候へ共何トナシ氣浮ニ候ニ付念以
 爲メ見テ置カント存候義ニ御座候事ト云々候事ト云々
 文兵衛ノ印影ヲ半切ノ端紙ニ書寫シ右チ見合テ致シ候事ト云々
 石原文兵衛ノ下宿出淵多留彦方へ参リ文兵衛ニ始メテ而會シタル
 ハ九月四日ニ有之金子ヲ貸與ヘタルハ同月六日ニ御座候六日
 午後三時コロニ罷越六時コロニ罷戻申候自分参リシ節ハ圓藏モ罷居
 候へモ自分二階へ上カリ候テ後ハ圓藏ハ外出イタシ候事ト云々

但其日ハ下女カ番茶ヲ汲テ差出シタル迄ニテ別ニ飲酒等ノ饗ハ
 無之候事ト云々

明治十一年十二月四日

九月四日ニ出淵久斯彦方へ参リ文兵衛へ始テ面會シタル旨申立候
 處四日ニハ参リシコ無之六日ニ到リタルハ初メテ参リ申立候文兵衛モ
 宿ノ者モ皆左様申セハトテ自分ハ参リタルニ相違無之且濱田次郎
 介方へ参リタルハ四日ニテ六日ニハ無之次郎介ハ六日ト申立候ト
 モ四日ニ相違無之候事ト云々
 自分六日ノ日文武兵衛方へ参リシ節ハ文武兵衛ハ座敷ノ煙草盆ノ前ニ
 踞テ居リシノ外ノ者ト碁ヲ圍テハ居リ不申候事ト云々
 其節他ノ止宿人モ隣席コハ寢コロシテ居リ候へトモ文武兵衛ノ座敷
 三ハ圓藏ト人トテ外ノ者ハ居リ不申候事ト云々

文兵衛ノ墓ヲ圍テ居リシハ自分勸解ノ差紙ヲ以テ參リシ日ニテ即九月二十日ニ有之候事

自分ノ自筆ト文兵衛ヨリ受取タル証文ト其字樣筆勢ハ誰カ見テモ自筆ニ相違ナキ様相見ヘ候ヘトモ自分ニ於テハ更ニ存シ不申但万一左様ノ偽証ヲ拵ヘ候片ハ忽チ疑ヒノ掛ルヘキ拙キヲハ不致必他人ニ認メサセ候旨ト存候事

右公判了

明治十一年十二月廿日

司法省十六等出仕山口忠敬

明治十一年十二月二十八日神戶裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十一年九月六日石原文兵衛ノ依頼ニ任セ常ニ蓄藏スル所ノ九拾圓ヲ出淵久斯彦方樓上ニ於テ貸渡シ其節同人自書調印シ

タル預リ証書ヲ受取リタル旨申立レ凡其際隣席ニ於テ始終傍觀セシ止宿人肥塚元貞ニ於テ其方文兵衛ト談話セシヲ認ルモ貨幣或ハ証書ヲ授受セシト無之旨申立ルノミナラス該証書タルヤ文兵衛ノ自筆ニアラスシテ之ヲ其方ノ筆跡ニ比照スルニ毫モ異ナラサルニ目明瞭タリ且又其方ニ於テ常ニ九拾圓ノ金額ヲ蓄藏セシモノナレハ曾テ加藤秀貞ニ僅々ノ負債アルモ未タ還償致サス其他各所ニ些々タル負債等ヲ爲ス何ソ其言ノ實際ニ反スルヤ果シテ正シシ金圓ヲ貸與セシモノナレハ濱田次郎助方ニ至リ竊ニ文兵衛ノ印信ヲ試驗チ乞フノ理アラシヤ況ヤ次郎助ニ託スルニ文兵衛ヘ秘シ吳レ可ク旨囑セシ等治郎助於テ亦之レヲ証言ニ加之該証書ノ押印タル文字記載ノ前ニ押捺シタルモノナル旨鑑定人等申立是ニ由テ之ヲ觀ルモ其方ニ於テ文兵衛ノ印信ヲ盜捺シ該預証書ヲ詐爲シ金圓ヲ騙

取セント圖リタルヲ明白ナリ依テ右科之内一ノ重キ改定律例第三
 百四十六條ニ依リ士族ナルヲ以テ明治十年第七十六號公布ニ照シ
 除族ノ上懲役七十日申付ルルニ付テハ其ノ重キ改定律例第三
 但シ該預リ証書ハ取上ルルニ付テハ其ノ重キ改定律例第三
 兵庫縣姫路警察署詰十等警部長谷川信綱ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナ
 リトシ明治十二年一月十日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出タル
 上告狀ノ旨趣左ノ如シ
 京都府下丹波國天田郡福知山岡ノ町士族川村時雄ハ係リ播磨國第
 十六大區四小區西山村石原文兵衛ヨリ金九拾圓ノ預リ証書ヲ詐爲
 シ騙取セント謀ラシタル吟味願出ルニ付即チ被告時雄ヲ訊糾スル
 ニ該証書ハ明治十一年九月六日正ニ金員ヲ附託シテ受ル處ノモ
 リト辨護スルト雖モ原告文兵衛ノ印信ヲ盜用シ証書ヲ詐爲シ金員

騙取セント圖リ飾磨區裁判所ニ勸解ヲ仰キタル徵憑完備セルヲ以
 テ被告時雄ハ改定律例第二百四十六條同二百四十七條賊盜律詐欺
 未得財及ヒ明治十年第七十六號公布ニ記載スル所ヲ以テ罰スヘキ
 犯罪者ト認定シ明治十一年十一月十三日證憑ヲ具シ神戸裁判所姫
 路支廳ニ求刑セシ所左ノ如ク所斷セリ
 但シ該預リ証書ハ前ニ掲ケタルヲ以テ畧之
 抑モ川村時雄ハ石原文兵衛ノ預リ金証書ヲ詐爲シ金員騙取セント
 謀リ飾磨區裁判所ニ勸解ヲ仰キタル徵憑明白ニ依テ改定律例第二
 百四十六條詐爲私文書同第二百四十七條上ニ告ルニ僞テ實ヲ以テ
 セス及賊盜律詐欺未得財數罪俱發一ノ重キニ從ヒ所斷スヘキヲ詐
 欺律詐爲私文書賊盜律詐欺未得財ノ二罪俱發ヲ以テ處斷スルニ
 ナラズ右三罪俱發一ニ重キニ從ヒ論スル所ハ改定律例第七十五條

凡華士族破廉耻甚ノ懲役百以下ヲ犯シ又閏刑ノ禁錮一年以上ヲ犯シ二罪俱發スレハ一ノ破廉耻甚ヲ以テ重ト爲シテ論スト云ニ依リ除族ノ上懲役四十日處斷爲ス至當トス然ルニ之ヲ閏刑ノ重ニ從ヒ除族ノ上懲役七十日ニ處斷セシハ不適當ノ裁判ナリト認メ上告候也大審院詰兼務檢事長岸良兼養代理檢事加納謙ハ明治十二年三月十八日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

川村時雄カ石原文兵衛ノ印影ヲ盜用シ預金証書ヲ詐爲スルニ罪ノ内一ノ重キ破廉耻甚ニ係ル詐欺未得財ヲ以テ論シ除族本刑ヲ加フヲ可キ者トス然ルニ神戶裁判所姫路支廳ニ於テ不應爲ニ問擬ス可キ詐爲私文書ノ罪ヲ破廉恥甚トナシ除族懲役七十日ニ處斷シタルハ兵庫縣警部意見ノ通不當ノ裁判ト考量ス

大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

辨明

川村時雄カ石原文兵衛ノ印影ヲ盜用シ預リ証書ヲ詐爲シ金九拾圓ヲ欺キ取リテ圖リ該偽証書ヲ以テ文兵衛ニ係リ飾磨區裁判所ニ勸解願出シ事件ニ付時雄カ罪ヲ斷スルハ改定律例第二百四十七條上ニ告ルニ詐ヲ實ヲ以セサル事情輕キ者懲役八十日同例第二百四十六條私文書ヲ詐爲スル者情ヲ量リ不應爲重懲役七十日賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ財ヲ得サル者懲役四十日右三罪俱發スルニ依リ改定律例第七十五條凡華士族破廉耻甚ノ懲役百以下ヲ犯シ又閏刑ノ禁錮一年以上ヲ犯シ二罪俱發スレハ一ノ破廉耻甚ヲ以テ重ト爲シテ論ストアルニ照シ及明治十年第七十六號公布改正閏刑律第十三條華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルコト甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フコトアルニ依リ名

例律三罪俱發以重論條ニ擬シテ重キ賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ財ヲ得サル者被廉耻甚ニ係ルヲ以テ除族ノ上懲役四十日ニ處斷スヘキモノトス然ルヲ神戸裁判所姫路支廳ニ於テ私文書詐爲ノ罪ヲ破廉耻トナシ除族ノ上懲役七十日ニ處斷セシムル不當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ明治十一年十二月二十八日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ川村時雄ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルニ左ノ如シ

右ノ前ニ辨明スル如クナルニ依リ三罪俱發以內ニ重キ賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論茲以テ重キ賊盜律詐欺取財條ニ照シ除族ノ上

懲役四十日

但詐爲シタル預リ証書ハ官沒

第三百六十一號

○判文(謾謗ノ件) 明治十二年三月二十日上告

○判文(謾謗ノ件) 明治十二年九月廿五日判決

三重縣志摩國答志郡鳥羽

町住士族藤田龍藏長男

當時新潟縣第一大區小

區越後國藩原郡新潟

大川前通七番町寄留

新瀉新聞社編輯長

藤田 九

明治十二年三月二十六年三月

右藤田九ニカ明治十二年三月十四日新潟裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ
口供左ノ如シ

明治十一年二月二十二日新潟裁判所ニ於テ人ノ榮譽ヲ害スヘキ
行事ヲ摘發公布スル科ニ依リ罰金五圓ニ處セラル

明治十一年三月一日新潟裁判所ニ於テ同科ニ依リ罰金七圓ノ處
一罪先ニ發シ既ニ罰金五圓ニ處セラル、ニヨリ之ヲ扣除シ罰金
貳圓ニ處セラル

明治十一年十一月十八日新潟裁判所ニ於テ同科ニ依リ罰金六圓ニ
處セラル

明治十二年一月二十一日新潟裁判所ニ於テ同科ニ依リ罰金七圓
ノ處一罪先ニ發シ既ニ罰金六圓ニ處セラル、ヲ以テ之ヲ扣除シ
罰金壹圓ニ處セラル

明治十二年一月二十一日新潟裁判所ニ於テ同科ニ依リ罰金五圓
ノ處一罪先ニ發シ既ニ罰金六圓ニ處セラル、ニヨリ罰金論セス
トノ言渡ヲ受ク

自分儀明治十二年一月七日刊行新潟新聞紙第五百貳拾五號雜報欄
内第十五項ニ掲載セシ全文左ノ通ニ有之候

新年の筆初めからナト強いかと道徳然たる先生方は苦い顔をせ
らるゝも承知なれど醜を顯はして美を勸むる懲惡の一端別て學
事ヲ勤むる人はお心あつて御讀なさい扱其處は東西ニエヘン
ニ村上を距る三里餘り荒島村の戸長さんの息女と冒頭に書出
して弊社新聞第三百四十五號五月二十九日既新聞欄外第十四項に
一寸顔見せをせられたる森川某の娘おむら嬢は田舎に似合ぬ
別品にて其嬋娟たる容色は我朝の小野の小町か唐土の楊貴妃が

再生と訝かる程にて里人はこれぞ娘御前といふ且ツ讀書を好み
 學術も大に進み云々と涎を流せし報知の儘記者もよだれを流し
 て記載せし此頃又々涎を流した報知に依れば其村に小學分校
 ノ設立ありし時望み村上住の主族◎◎忠◎◎氏を教員に聘せし
 が「おむら」は此時より該校に入學忠◎◎氏に隨從して勉強の効著
 しく單語篇より色圖を暗誦し戀の試験に振立鞭より忠◎◎氏が生
 て働らく大鞭を喰しめてより夜學自身を入れ毎夜「おむら」にアホ
 エオ逢ぬるの夜は生徒に便り慰ひを文にカキツケコ丘焼持の妬
 み人は二人へ水をサシスゼツそれから浮名のダチツテ下斯なる
 からは世の中の義理も糸瓜もナニヌチノ忍びくりに逢ことも阿
 漕の浦と重なればいつ世か「おむら」が兩親の耳朶に留まりし故黙
 止せられず「おむら」を呼び宥めつ賺しつ切れよ離れよと勸むるに

泣出し一度この身を任せし時より他の男に肌觸れしと忠◎◎さん
 に誓ひし時忠◎◎さんも點頭て女子といふは世の中に夫と云ふは
 唯一人背かば道に缺るすよ替り玉ふな替らしと互ひに固約せ
 しもの兩親さんの仰せでもこのことばかりは許さずと大きな島田
 を疊よ押付け泣口説つ、何程か理解を説て聞すれば聞入つべき
 様子も見へねば兩親も困り果るればと思ひ込みしことなり養子
 に貰ひ受けんとて即刻親類協議して村上町の忠◎◎氏が實家へ媒
 妁を以て云込むと先方までは獨子にて系統を嗣業者なれば其許
 の息女を此方の嫁にして賜はれといはれて見ればるれも道理せ
 ん困つたことには此息女も獨子にして掛替なければ嫁に遣る
 譯にもゆかず困りし中に親類ともが打寄り何分若い同士の事も
 る久しく中を隔て、置かは諦めることもありなると「おむら」を宅

に閉籠て逢瀬の中を断れしかばねむらの毎日泣悲しみ若し忠〇
 と添れずば死で仕舞ふといひつゞけ忠〇氏も學校に従事の仕て
 居るも時々太き溜息のき逢ぬ恨みをかこてる様子色の加減を知
 ったる人は若しや筋かよ言合せ常磐津ふしや新内ふ語るやうあ
 道行にならねばよいがと心配するよし二人か行狀此上なしに悪
 いといへど兩親達も餘りに堅くせられたら掛替のない小兒の身
 に過ちありては取替しはあり升まいがいつれよしても困った
 狂言だ

右ハ村上町色輪九郎ト申者ヨリ郵送ニ係ル原稿ノ旨意ヲ失ハサル
 様自分ニ於テ取捨編輯致シ荒島村森川某ノ娘ムラナル者同村小學
 分校ノ教員〇〇忠〇ト姦通致シ居リ詰リ親ノ言フ事モ不聞入トノ
 旨意ニテ懲惡ノ爲メニ掲載セシ儀ニ有之尤モ右ムラニ於テハ事實

姦通ノ所爲有之事ト心得居候事

右原稿ヲ郵送セシ村上町色輪九郎ト申者ハ體カニ村上町ニ有之事
 ト心得居候尤而會等致シタル義ハ無之且是迄新聞ノ原稿等郵送セ
 シ事ハ無之ト存候前郵送セシ原稿ノ全文ハ左ノ通
 新潟新聞第三百四十五號の雜報欄内に顔見世をしたる村上を距
 三里餘の荒島村の戸長さん森川某の娘「ねむら」ハ小野小町が再生
 云々と記載ありしも無理ハ御座らぬ古今獨歩無類飛切野暮に譽
 れば沈魚落雁閉月羞花拙者も余所ながら垣間見したら上の口の
 涎れと下の口の涎れが一所お流れました容貌ばかりが能いのみな
 らで當時人間として學ばねばならぬ學問が大好物で行々は男女
 同權を主張すべき氣込と見ゆて小學分校の御設立の時より直ぐ
 に入校し大きに勉勵ありましたか此學校の教員さんは村上住の

御士族で〇〇忠〇と申しましたが忠〇先生は音に聞けた勉強家で
 で「れむら」御前を教育せらるるに懇々篤々スラ々々ベツタリ單語篇
 小學讀本色圖形體と御指南ありしか其中第一等の教育をおせる
 は色圖にて晝では色氣が譯らねど夜學を設けて兩人が互ひに勉
 強せられしを壁に耳あり障子に目ありいつしか「れむら」の兩親が
 聞つけて顔に青筋額に息の立ばかり驚ろき怒りて「れむら」を呼ぶ
 け忠〇さんと切れて仕舞ひと説諭されるどれむら御前はワツト
 云ツ、泣出し兩親さんが此わしへ素讀に教しへて下された女今
 川庭訓にも女子といふは世の中に殿御といふは唯一人親兄弟も
 より捨て殿御につくが世の教へ夫にまだソレ悲しきは離別せよ
 とは聞かませぬたとへ兩親さんの仰せでも此事ばかりは堪忍
 とと妹脊山やら質店やら淫奔娘の苦説を其ま、泣立るので兩親

も殆んど當惑夫ほど好た中ならば養子に取らんと忠〇先生の親
 許へ貰ひかけると先方では獨りの男子で他姓を續事ならぬとの
 斷はりなる事ならば此方へ嫁にと打て變つた挨拶に獨り娘も獨
 り息子嫁も登りも成かねて兩親はじめ親類衆も大困りで策
 を廻らま何でも忠〇ふ逢せぬが上分別と一間も番人をつけて外
 出をさせぬ故おむらは毎日泣かなるみ死んで仕舞ふと騒ぎ廻ると
 此方の忠〇先生も學校へ出て何かそは、時々授業も手よつ
 かぬ事があるとは尤ともな事夫から委考く探訪きて此娘が生れ
 てゐら眞實忠〇先生一人かと思つたらあるぞへ、忠〇先生よ
 振舞ぬ先お彼是四五人もありまゝたが是も跡から報知をいませ
 う何ふまろへ教員と戸長の娘では醜体さわまるで御座らんか記
 者先生達

村上住 色輪九郎

新潟新聞社御中

前條荒島村小學分校教員ノ姓名ニ當ル箇所へ〇〇忠〇ト掲載セシ
ハ原稿ノ儘登錄シタル儀ニ有之右〇〇忠〇トハ事實何人ナル哉自
分ニ於テハ承知不仕候

右投書者則色輪九郎ト申者其筋ニ於テ御取調相成タルニ村上町ニ
ハ右姓名之者無之趣今般始メテ承知仕候

然ル處今般越後國岩船郡荒嶋村森川杉藏並同人娘「ムラ」ヨリ其筋へ
告訴ニ及ヒタル趣ヲ以テ御吟味ヲ受ケ左スレハ右新聞紙へ掲載セ

シ事項ハ右森川杉藏娘「ムラ」ニ相當リ候儀ト存候事

右ノ口供ニ依リ明治十二年三月十五日新潟裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ
申渡シタリ

其方儀明治十二年一月七日刊行新潟新聞紙第五百貳拾五號雜報欄
内第十五項ニ荒島村森川杉藏長女森川「ムラ」ノ榮譽ヲ害スヘキ行事
ヲ掲載公布スル科譏謗律第五條ニ依リ罰金五圓申付ル

藤田九二ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年三月二十日大
審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

九二儀今般即チ明治十二年三月十五日新潟裁判所ニ於テ

其方儀明治十二年一月七日刊行新潟新聞紙第五百二十五號雜報
欄内第十五項ニ荒島村森川杉藏長女森川「ムラ」ノ榮譽ヲ害ス可キ
行事ヲ掲載公布スル科譏謗律第五條ニ依リ罰金五圓申付ル
ト申渡サレ候處新潟裁判所ノ裁判大ニ法律ニ違フト奉存今般奉上
告候趣意ハ森川「ムラ」ノ榮譽ヲ害スヘキ行事ヲ掲載公布スル科ノ有
無如何ニ係ルニハ無御坐單ニ譏謗律第五條ニ依リ罰金五圓申付ラ

ルノ点ニ御坐候夫法律ハ三罪俱發以重論シ律例有之候ニ付從來諸罰則ノ犯人ハ一罪毎ニ處分相成リ候事モ有之候得共到底法律ハ同一ニ歸着セス候テハ不都合ニ候故讒謗律並ニ新聞條例ノ犯人ニテ二罪俱發シ若クハ一罪先ニ發シ已ニ論決テ經テ餘罪後ニ發スルガ如キハ固ヨリ律例ニ據テ三罪俱發ヲ以テ處分相成候事ハ明治八年九月二十五日司法省ヨリ太政官ニ付御指令ニテ判然致候ノ旨ナラズ九二儀ハ恐ナガラ既テ誤テ屢々實試スル所ニ御坐候今敢テ多言ヲ要セザレモ故ラニ左ニ其一例ヲ掲ケ候ハ新潟裁判所今般ノ裁判不服ノ手續ニモ關係スル事ニ御坐候乃チ九二儀ハ一罪先キ發スル所ニ爲リ明治十一年十一月十八日新潟裁判所ニ於テ明治十一年九月五日刊行新潟新聞紙上ノ儀ニ付讒謗律第五條ニ依リ罰金六圓申付テ候處餘罪後ニ發スル所ニ爲リ明治十三年

一月二十一日ニ又新潟裁判所ニ於テ其方儀明治十一年十一月十三日刊行新聞紙第四百八十四號雜報欄内第九項ニ登錄シタル文中其名前ニ當ル字ニ圈点ヲ附シ越前國今立郡鱒江上小路住石川縣士族齋藤金平長男齋藤菊治ノ榮譽ヲ害スルキ行事ヲ摘發公布スル科讒謗律第五條ニ依リ罰金七圓可申付處一罪先キニ發シ已ニ明治十一年十二月十六日罰金六圓斷決ヲ經ルヲ以テ之ヲ扣除シ罰金壹圓申付ルニ御坐候ト申渡サレ候ハ即チ二罰俱發ヲ以テ處分セラレタル例ニ御坐候付テハ又明治十二年一月二十日ニ新潟裁判所ヨリ罰金壹圓ヲ申渡サレタル一證ニ御坐候然ル處九二儀ハ今船新潟裁判所ニ於テ申渡サレタル宣告文ノ通り明治十二年一月七日刊行新潟新聞第五百二十五號中ニ誤テ讒謗律ヲ犯スル事發覺タルト雖モ該犯律ハ前顯

如ク明治十二年一月三十一日新潟裁判所ノ斷決ヲ受クルノ以前ニ係リ且ツ前顯ノ如ク九二儀、明治十二年一月三十一日ニ罰金壹圓ノ申付ヲ受ケシヲ以テ之レガ至當ノ裁判ヲ爲ス者ハ乃チ其方儀明治十二年一月七日刊行新潟新聞紙第五百二十五號雜報欄内第十五項ニ荒島村森川杉藏長女森川「マ」ノ榮譽ヲ害ス可キ行事ヲ掲載公布スル科讒謗律第五條ニ依リ罰金五圓可申付ノ處一罪先キニ發シ已ニ明治十二年一月三十一日罰金壹圓斷決ヲ經ルヲ以テ之ヲ扣除シ罰金四圓申付ルト申渡シテ適當ノ事ト奉存候其故何トナレハ明治十二年一月二十一日ニ罰金壹圓申付ルノ事ハ元來罰金七圓可申付ノ科アリシモ一罪先ニ發シ已ニ明治十一年十一月十八日罰金六圓斷決ヲ經ルヲ以テ罰金七圓ノ中六圓ノ科ハ二罪俱發ヲ以テ論シ更ニ剩ル壹圓ノ科ヲ

罰スル者ナレハ今般ノ罰金五圓ノ罪ニ對シテハ二罪ナリ而シテ罰金壹圓ノ一罪ハ先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ罰金五圓ノ餘罪後ニ發スル者ナレハ固モリ律例ニ據リ二罪俱發ヲ以テ處分相成リ後ノ罰金五圓ハ先ノ罰金壹圓ヲ扣除セザルヲ得ザルノ理由有之故ニ御坐候然ル處新潟裁判所ニ於テハ自カラ明治十二年一月三十一日ノ裁判ヲ申渡シナカラ且ツ九二儀今般審問中新潟裁判所ニ對シ申上押印シタル口供中ノ一項ニモ一明治十二年一月三十一日新潟裁判所ニ於テ同科即チ八ノ榮譽ヲ害スベキ行事ヲ掲載公布スル科ニ依リ罰金七圓ノ處一罪先ニ發シ已ニ罰金六圓ニ處セラル、ヲ以テ之ヲ扣除シ罰金壹圓ニ處セラルトノ明言有之候ニモ係ラヌ前顯ノ如ク單ニ罰金五圓ノ申渡ヲ爲スモノ

ハ二罪俱發以重論ノ律例ニ違背致儀ニ奉存候尤新潟裁判所ノ意見
 ナ推察仕候ニ九二儀今般ノ犯罪ハ明治十二年一月七日ノ事ニシテ明
 治十二年一月廿一日ノ斷決ハ明治十二年十一月十八日ノ斷決ト二
 罪俱發ヲ以テ論シ先ノ罰金六圓ヲ扣除シタル故ニ今般ノ斷決ニ關
 涉スルヲ得ストノ事ニ候ハ然レモ九二儀今般ノ犯罪ハ固ヨリ明
 治十二年一月七日ノ事ニシテ明治十二年一月二十一日ノ斷決以前
 三發覺スルヲ得ル者ナレバ若シ明治十二年一月二十一日ノ斷決以
 前ニ被害人森川「ム」ヲ「ヨ」リ告訴シ二月二十一日ヲ以テ三罪共ニ判決
 セバ新潟裁判所ハ如何申渡スベキ哉此ノ如ク疑問ヲ起セバ新潟裁
 判所ノ意見大ニ法律ニ違ヘルハ言ハズテ分明ニ抑モ此ノ如キ
 三罪共ニ判決スルヲ場合ニ於テモ新潟裁判所ニ罰金壹圓ヲ申付テ
 又罰金五圓ヲ申付ケ一罪毎ニ處分スル歟若シ然ラハ至當ノ裁判ニ

アラスト奉存候果テ然ルガ故ニ今般新潟裁判所ノ判決ハ先ノ罰金
 壹圓ノ罪ト後ノ罰金五圓ノ罪トナ二罪俱發ヲ以テ論シ已ニ斷決ヲ
 經タル壹圓ヲ扣除シテ罰金四圓ヲ可申付ノ處先キ以テ罰金壹圓ヲ扣
 除セスシテ更ニ罰金五圓ヲ申付タレハ其裁判大ニ法律ニ違背ニ奉
 存候間明治十年二月太政官御布告第十九號ニ基キ奉告候以テ
 大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如ク
 上告ノ主点
 上告人藤田九二カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス
 明治十二年一月二十一日新潟裁判所ニ於テ明治十一年十一月十三
 日刊行ノ新聞紙へ人ノ榮譽ヲ害スヘキ行事ヲ摘發スル科ニ依リ罰
 金七圓ニ處セラルヘキ處既ニ明治十一年十一月十八日同科ニ依リ
 罰金六圓ニ處セラレタルヲ以テ之ヲ扣除シ罰金壹圓ニ處セラル然

ルニ今般ノ犯罪ハ明治十二年一月七日ノ事ナルヲ以テ明治十二年一月廿一日罰金壹圓ノ罪ト罰金五圓ノ罪ト二罪俱發ヲ以テ論シ壹圓ヲ扣除シ罰金四圓ニ處セラレヘキヲ罰金五圓ニ處セラレタル裁判ハ不服トシテ

辨明

藤田九ニカ明治十二年一月二十一日罰金壹圓ニ處セラレタルハ犯時明治十一年十一月十三日ニシテ該時發覺スレハ罰金七圓ニ處スヘキヲ既ニ明治十一年十一月十八日罰金六圓ノ斷決ヲ經タル後ニ發シタルヲ以テ二罪俱發以重論律ニ擬シ金六圓ヲ扣除シ罰金壹圓ニ處斷スヘキモノナリトス然ル後明治十二年三月十五日罰金五圓ノ處斷ヲ受ケシ犯時ハ明治十二年一月七日ニシテ明治十二年一月廿一日罰金七圓ノ處一罪先キニ發シ既ニ罰金六圓ニ處セラレ

ナ以テ之レヲ扣除シ罰金壹圓ニ處セラレタル以前ニ犯セシ科ナルニ依リ今般ノ罰金五圓ハ二罪俱發以重論條一罪先キニ發シ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ云々重キハ更ニ論シ前罪ニ通計シ後數ニ充ツトアルニ依照シ九ニカ先キニ科セラレタル罰金壹圓ヲ扣除シ罰金四圓ニ處斷スヘキヲ相當ナリトス然ルヲ新潟裁判所ニ於テ明治十二年一月廿一日處斷シタル罰金壹圓ヲ扣除セス單ニ森川「ムラ」ノ榮譽ヲ害スヘキ行事ヲ掲載スル科謔謗律第五條ニ依リ罰金五圓申渡シタル裁判ハ不適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年三月十五日新潟裁判所ニ於テ藤田九ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

藤田九 二

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ讒謗律第五條ニ照シ罰金五圓ノ處ニ罪俱發以重論條ニ依リ明治十二年一月廿一日處斷ヲ受ケタル罰金壹圓ヲ扣除シ

罰金四圓

第三百六十二號

〇判文(闘毆ノ件)明治十一年五月十日止告
明治十二年九月廿五日判決

堺縣和泉國日根郡長瀬

村平民

喜多彦之丈

明治十一年四月二十八日九月

右彦之丈カ明治十一年四月二十九日大坂裁判所堺支廳ニ於テ審問ヲ

受ケタル口供左ノ如シ

自分儀明治十年十月十二日午後八時頃安松村町屋直松方ニ罷越シ暫時相嘶シ同家立出候處辻野棟太郎馬戸岸松ニ出逢三人同道歸村ノ途中射場新左衛門方居宅前通行候處安松村檉葉榮吉信田由松ノ兩人來リ最前由松ヲ打擲セシハ棟太郎ナルカ上榮吉儀荒々敷申シタルニ棟太郎ヨリハ買フ喧嘩ナラ賣テヤレト云様由松ヲ棟太郎ノ前ニ突付ケ榮吉儀棟太郎ト摑ミ合フ哉否棟太郎義自分ニ向ヒ助ケテ吳レト申ニ付榮吉ハ摑ミ掛リタル處棟太郎ハ脊ノ邊リニ傷受居リ榮吉ハ刃物ヲ携ヘ居リ候テ自分ノ頭上ヲ突キ候ニ付同人ノ陰囊ヲ強ク摑ミ互ニ揉合フ際由松義ハ其場ニ不居合同人兄森口幸三郎ナル者來リ双方引分ケ吳レタルニ付自分棟太郎共岸松ニ連ラレ歸宅ノ上傷所改見ルニ頭上四ヶ所左リ膊突貫カレ居候然ル處御檢使御出張ノ上傷養生被申付其節榮吉ノ陰囊横ニ四寸程擧九下垂致

候越承リ右ハ自分儀負セタル傷ニ有之處當節ニ至リ右傷平愈致シ
候由自分傷所ハ其砌リ平愈致候尤右喧嘩ノ前由松儀棟太郎ニ打擲
セラレタル節ニモ自分加勢セシ哉ノ御糺シヲ相受候得共右等ノ儀
ハ決シテ無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十一年五月四日大坂裁判所堺支廳ニ於テ左ノ裁
判申渡シタリ

其方儀同行人辻野棟太郎ナル者檜葉榮吉ト闘毆ノ際棟太郎ヨリ助
ケテ吳ノト聲掛ラレ直ニ榮吉ヘ搦ニ掛ル際同人ヨリ刃物ニテ頭上
數ヶ所ニ傷付ラレ榮吉ノ陰囊ヲ擧キ罌丸ヲ下垂ナサシムル科陰陽
ヲ毆(原ノ)敗スル者ヲ以テ論闘毆律ニ依リ懲役十年申付ル

喜多彦之丈ニ於テ右ノ處斷ヲ不服ナリトシ明治十一年五月十日大審
院ニ差出シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

第一條

自分儀明治十年十月十二日午後八時頃安松村町屋直松方へ罷越シ
暫時相嘶シ同家立出タリ然ル所辻野棟太郎馬戸岸松ニ出會ヒ三人
同道ニテ彼是レ雜談致シ歸村之途中射場新左衛門方居宅前通行ノ
際安松村檜葉榮吉信田由松ノ兩人突然トシテ馳セ來リ嚮キニ由松
ヲ打擲セシハ定メテ棟太郎ヲラント榮吉荒々敷申立ルニ付棟太郎
ヨリモ亦買フ喧嘩ナラハ賣テヤレト言フヤ否由松ヲ棟太郎ノ前ニ
突付ケラレ榮吉棟太郎ト互ニ搦ニ合フヤ棟太郎自分へ助ケ吳レト
云テ聲ニ應シ棟太郎ヲ助ケント直チニ榮吉ヘ搦ニ掛リタル所既ニ
棟太郎ハ脊ノ邊リニ重傷ヲ負ヒ流血淋漓タリ榮吉又刃物ヲ以テ自
分ノ頭部數ヶ所左右ノ手ニ重傷ヲ受ケタルモ素ニリ闘爭スルノ念
慮毫モ無クシテ俄然應援シタルモノナレハ我カ身ヲ防禦スルニ由

シ無ク又遁逃スルノ道無キヲ覺トリ止テ得スニ時暴威ヲ避ケシ同
 同人ノ陰囊ヲ強ク擲ミ相互ニ揉合テ折柄同人兄森口幸三郎ナル者
 來リ双方引分吳レタリ其際榮吉ノ陰囊ヲ擲キ翠丸下垂テサシムル
 科陰陽ヲ毀敗スル者ヲ以テ論シ鬪毆律ニ依リ懲役十年被申付タリ
 依テ思量スルニ自分同行者他人ト鬪毆ノ際助力ヲ乞ハレ應援セシ
 所何ソ圖ラズ榮吉刃物ヲ以テ自分へ重傷ヲ負ハセタルニ其遁
 ル可カラサルヨリ陰囊ヲ強ク擲ミタルハ止テ得サル場合ニ成テ
 タリ然ルニ榮吉傷所ノ如キモ全愈ニ及ヒタリ今自分ト榮吉ノ罪科
 ナ比較スル榮吉ニ於テハ刃物ヲ以テ自分へ重傷ヲ負ハセタルヲ
 ナラス辻野棟太郎ノ如キニ重傷ノ爲メニ死亡セリ果シテ然ラハ豈
 之レヲ刃殺ト謂ハサルヲ得ン然ルニ櫻葉榮吉ハ杖七十ノ御處刑ニ
 シテ歸村スルヲ得タリ自分ニ於ケルヤ懲役十年ノ嚴刑ヲ蒙リ白日

青天ノ光輝ヲ拜スルヲ得サルハ是レ不服ノ要點ナリ

第二條

第一條ニ開陳セシ如キ事情ニ依リ明治十年十二月五日拘留ニ相成
 タル處母病氣ニ付親族ヨリ責附瀕出テ同月二十八日歸村セシ處同
 三十日信田由松兄森口幸三郎ヨリ懇々依頼ヲ受テ謝金トシテ拾貳
 圓ヲ貰受ケ由松ノ罪科ヲ包藏シタル其罪又輕カラズト雖モ先非テ
 悔ヒ自首仕リ候間如何様ノ御處刑ニ相成リ雖モ敢テ苦シカラズ
 抑自分榮吉鬪爭中由松ナル者ハ何レヘ行シヤ居合以テ、兇旨上申
 シタルハ全ク偽言ニシテ刃物所持シタルハ未ダ確認セズト雖モ榮
 吉ノ助力ヲ爲シ鬪毆シタルト相違無之將タ辻野棟太郎死亡ノ如キ
 モ重傷ノ爲メ死亡セシト明瞭タリ余何トナレハ昨十年十月十二日
 鬪毆ノ爲メ棟太郎重傷ヲ受ケ同區内長瀧村醫師山内三英察頼ニ治

療ヲ受ケシ處重傷ニシテ快復ノ目途期シ難キ趣三英ノ診察ニ付同月十四日同國白根郡佐野警察分署へ其旨届ケ出シ處醫者竹井松庵ナル者召連レ巡査出張之上棟太郎及ヒ榮吉彦之丈傷所等試験有リシニ棟太郎ノ如キハ重傷ニシテ一週間ヲ經過セサレハ死生ノ程診斷致シ難ク且ツ榮吉傷所ニ於ケル僅カニ二週間並ニ自分傷所ハ四^{ニハ三}トアリ^{トアリ}週間ニシテ凡快愈ノ見込ナル趣診察有タリ然ルニ同月廿五日夜棟太郎苦痛劇シク依テ山内三英へ診察ヲ乞フ處同人殆^ト危篤之旨申述セリ因テ直チニ佐野警察分署へ届出シ處翌廿六日朝右竹井松庵巡査同道ニテ出張ノ途中棟太郎終ニ死去ニ相成リタルニ付松庵其ノ死體檢視セラレ嗚呼此ノ重傷ニシテ治療^ハ及ハサルハ尤モ然リト言ハレシハ一座ノ人々目撃耳聞シ正ニ承リ知ル所ナリ如斯確証有ルモ棟太郎余病ニ罹リ死亡云々ヲ以テ榮吉ノ御處刑有

之タルハ嚮キニ所謂輕重之反對シタルモノト疑團了解シ難ク不服ナル所以ナリ

大審院ニ於テ裁判スル^ト左ノ如シ

上告ノ主點

上告人喜多彦之丈カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

第一 檜葉榮吉ヨリ刃傷セラレ、際防禦ノ爲メ同人ノ陰囊ヲ搦ニ傷負ハセタルニ陰陽ヲ毀敗シタルモノヲ以テ論シ懲役十年ノ處斷アリシハ不服ナリトノ事

第二 信田由松ノ兄森口幸三郎ヨリ由松カ罪科ヲ包藏シ吳^レヘキ依頼ヲ受ケ爲メニ金拾貳圓貰ヒ受ケタルトノ事

第三 辻野棟太郎ハ檜葉榮吉カ刃傷ノ爲メ死亡シタルトノ事

辨明

第一條

闘毆律闘毆條第三項ニ陰陽ヲ毀敗スルトアルハ人ノ陰陽ヲ傷シ以テ將來生育スルコト能ハサル痲疾ニ至ラシムル者ヲ處斷スル法律ナリトス故ニ彦之丈カ榮吉ノ陰囊ヲ搦ニ傷負ハセタルハ人ノ陰陽ヲ毀敗スルモノニアラス何トナレハ當時榮吉カ診斷ヲ爲セシ醫師山内三英並武井松庵カ明治十年十月三日堺縣令稅所篤ニ差出シタル容休書ヲ閱スル

其旨趣左ノ如シ

容休書

一 體質

強壯

櫻葉榮吉

一 病名

陰囊壁創兼腰部打撲

一 証候

陰囊中央ヨリ横ニ壁ヲ四寸竪丸下垂ス

右ノ腰部打撲

右ノ肘ニ小庇壹ヶ所

一 經過

二十五時間

一 處方

〔治療法投劑ノ分量等記〕
載アレモ之レヲ掲ケス

一 豫后

二週間ヲ經レハ全癒ヲ診斷仕候

明治十年十月十三日

山内三英印

醫師

武井松庵印

堺縣令稅所篤殿

右ノ診斷書ニ據レハ彦之丈ハ榮吉カ陰囊ヲ搦ニ壁ヲ傷負ハセタル

モノニシテ人ノ陰陽ヲ毀敗シ以テ將來生育スルコト能ハサル癩疾ニ至ラシムルモノヲ以テ論スルコト得サレハナリ左スレハ彦之丈ハ手ヲ以テ榮吉カ陰囊ヲ搦ミ傷負ハセタルモノナレハ闘毆律闘毆手ヲ以テ人ヲ毆キ傷ヲ成ス者ヲ以テ論シ懲役三十日ニ處斷スヘキモノナリトス然ルチ大坂裁判所堺支廳ニ於テ彦之丈カ罪ヲ斷スルニ榮吉ノ陰囊ヲ搦ミ孽キ傷負セシニ因リ人ノ陰陽ヲ毀廢シタルヲ以テ論シ闘毆律ニ依リ懲役十年申付ケタルハ不法ノ裁判ナリトス

第二條

信田由松ノ兄森口幸三郎ヨリ由松カ罪科ヲ包藏シ吳レヘキ依頼ヲ受ケ爲メニ金拾貳圓貰ヒ受ケタル旨申立レハ彦之丈カ此ノ上告ニ就テ堺縣警保課ニ於テ森口幸三郎外三名ヲ取調ヘタル書類ヲ以テ大坂裁判所堺支廳ヨリ明治十一年六月十日附テ以テ本院ニ差回セ

リ右書類中堺縣警保課ノ通知書ヲ閱スルニ其旨趣左ノ如シ

喜多彦之丈

右ノ者先般上告致シ候節明細書中ニ信田由松兄森口幸三郎ヨリ依頼ヲ受ケ金拾貳圓貰受云々有之ニ付關係ノ者共取調求刑致ヘシ旨及御通知候處右關係人共別紙手續（森口幸三郎外三名）ノ通申立由松ノ罪科包藏ヲ依頼ナシタルモノニ無之依テ求刑不致候條御承知有之度書類相添此段申進候也

明治十一年六月三日

堺縣警保課

堺支廳御中

右書面ニ處レハ彦之丈カ森口幸三郎ヨリ由松ノ罪科包藏ノ依頼ヲ受ケ爲メニ金拾貳圓貰ヒ受ケタル旨申立ハ事實ニ相違セシ申立ナリトス

第三條

辻野棟太郎ハ檜葉榮吉カ刃傷ノ爲メ死亡シタリト申立シト右ハ榮吉カ受ケシ刑ノ當否ニ付テノ陳述ニシテ彦之丈カ受ケシ刑ニ差懸キナキヲ以テ之レカ辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十一年二月四日大坂裁判所堺支廳ニ於テ喜多彦之丈ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルコト如シ

右ハ前ニ辨明スル如シナルニ因リ檜葉榮吉カ陰囊ヲ擱テ傷負ハスル科闘毆律闘毆手ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成メ者ヲ以テ論テ三箇月懲役三十日

第三百六十三號

○判文竊盜三犯ノ件明治十二年一月十八日上告
明治十二年九月廿六日判決

東京府京橋區入丁堀仲

町平民彌兵衛長男

西川 德次郎

明治十二年一月
二十三年四月

右德次郎カ明治十三年一月九日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

明治九年十二月四日當裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニ依リ懲役六十日ニ處セラレ

明治十年五月十九日同所ニ於テ竊盜再犯ノ科ニ依リ脱檻スルヲ以テ二等ヲ加ヘ懲役百日申付ル

自分儀犯罪ノ始末ハ警視第一方面第五分署ニ於テ詳細申立候通少

シモ相違無之此段申上候盜品代積金壹圓七錢ニ相成候趣承知致候事

警視第一方面第五分署ニ於テ吟味ヲ受ケタル口供
自分儀滿洲放免ノ后豆州又ハ下総佐倉邊ノ田舎ヘ罷越シ曾テ習覺
アル疊職ヲ業トナシ明治十一年十一月下旬歸京爾來所々漂泊中困
迫ノ餘リ又候盜心ヲ醸シ全年十二月末日ハ失念福田町八番地今泉
己之助方ヘ忍入り五布蒲團壹枚竊取シ秋葉社内ヘ持參住所姓名不知
屑買体ノ者ヘ代價三拾七錢五厘ニテ賣却該金ハ退々飲食ニ費消尙
又全月廿九日兼テ秋葉社内ニテ懇意セル上之(原ノ)邊ニ居住ノ清水
兼吉ニ出會全人ノ云フニ前夜人形町通り唐物店ニ於テ物品若干盜
取候趣ニ付同人發言尙供々ナサント存シ夫ヨリ全道元大阪町ニ到
リ右兼吉ハ途中ニ待セ置キ自分ハ全所唐物商川口モン方ニテ店頭

ニ排列セル白佛蘭練襟卷數本竊取候處全家雇人ニ被見認逃走ノ際
周章ノ餘リ該品ハ路上ヘ投棄内一品持參尙遁走ノ途中右品ハ兼吉
ヘ相渡シ里俗藝者新道ヘ逃入候處前書雇人ニ追跡ヲ受ケ遂ニ取押
ラレ巡行巡查方ヘ被訴出候義ニテ前夜ノ所業ハ自分存知不申候事
明治十二年一月九日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
其方儀竊盜ノ科ニ依リ再度處刑受ル身分尙ホ盜心ヲ生シ當今行方
不知清水兼吉ノ發意ニ從ヒ又ハ壹人ニテ川口モン方外壹ヶ所ヘ忍
入物品盜取ル賍金壹圓餘ノ科竊盜條ニ依リ三犯ナルヲ以テ懲役十
年申付ル
德次郎ニ於テハ右ノ處斷ヲ不服ナリトシ明治十二年一月十八日大審
院ニ上告狀ヲ差出シ明治十二年八月九日上告補正書ヲ差出セリ其旨
趣左ノ如シ

第一條

清水兼吉ノ發意ニ從ヒ云々ノ義ハ私先般前科ニテ御拘留ノ際彼ト
 同房致居候故知已ニ相成申候其後私儀放免ニ相成昨明治十一年十
 二月三十日夕刻人形町ニテ不斗同人ニ出會仕候其際同人申聞候ニ
 ハ酒食等致ヘク候間同道可致趣ニ付不取敢同行致候處同町唐物店
 ニ於テ襟卷一ツ盜取逃去申候私儀ハ其際同所ニ立止リ罷在候處ニ
 同店ノ者共馳參唯今同行致サレ候仁前條ノ次第ニ付一ト先第一方
 面第四分署迄可參吳由ニ付則同道仕右分署ニ罷越申候私義ハ全ク
 清水兼吉ト申合セ物品可盜取杯ト申意ハ更ニ無御坐候
 第二條
 外一ヶ所ニ忍入物品盜取云々ノ義ハ私ニ於テ覺知不仕候他ニ決テ
 忍入候義ハ更ニ覺無御座候

上告補正書 明治十二年
 八月九日

第一條

清水兼吉ノ發意ニ從ヒ又ハ一人ニテ川口モン方へ忍入ト有リ然ル
 ニ川口モンナル者ハ何町ニ居住シ何商業ナル者成哉モ未タ嘗テ知
 ラサル所ナリ然ルキ自分一人ニテ同人方へ忍入トノ宣告書ハ乍恐
 誣罪ト言フ可シ又清水兼吉ナル者ノ發意云々既ニ上告明細書ニ
 テ上陳スル所ナリ

第二條

外一ヶ所ト有之ハ今泉己之助ノ事ト想像セリ該人ハ自分親戚ニシ
 テ過般面會相願候處御許容相成則面會致シ其際同人申聞候ニハ過
 日東京裁判所へ御呼出ニ相成自分御取上金ノ内ヲ以テ金拾五錢御
 下渡シニ付則受取申候旨申聞候然レモ自分儀ハ同人物品等聊モ窃

取致候義ハ嘗テ無之抑モ同人盜難ニ逢シ於十二年八月某日其際自分儀ハ静岡縣下伊豆國稻取村番地不明疊屋長左衛門方ニ止宿罷在候況ヤ里程遠隔何シテ竊取スルノ理アリヤ然リ而テ宣告書ニ據レハ外ニケ所ニモ忍入物品竊取云々トアリ自分ニ於テハ更ニ覺知セサル所ナリ然ルカ故ニ該本人御召喚ノ上實際御詰問被爲在候ハ事實明瞭ナラシテ手斯ル不理ナル宣告書ヲ焉ソ默々甘受ス可ソ哉仰キ冀クハ更ニ公正ノ判決ヲ以テ覆審被仰付度伏テ奉懇願候旨

大審院ニ於テ裁判スル所左ノ如シ

上告ノ主點

上告人西川徳次郎カ請求スル所左ノ條件ナリトテ

清水兼吉ニ人形町ニテ出會酒食ノ爲メ同行ノ處同町唐物店ニ於テ兼吉襟卷一ツ盜取逃去リタル儀ニテ申合セ盜業致シヨルニハ之レ

上告狀 第一條

ナントノ

川口モソ方外ニケ所トスルハ今泉己之助ノ事ト想像セリ同人物品等脚盜取リタル之ヲナク當時静岡縣下伊豆國稻取村疊屋長左衛門方ニ止宿罷在リタルトノ

上告補正 書第二條

辨明

口供ハ犯人ノ申立ル所ヲ其儘記載スル者ナレハ口供讀聞ノ中自ラ申供セシ所ト相違之廉アリト思考スルキハ即時申立改正ヲ求ムヘキニ徳次郎カ東京裁判所於テ爲シタル口供ニ犯罪ノ始末ハ警視第一方面第五分署ニ於テ詳細申立候通少シモ相違無之此段申上候盜品代積金壹圓七錢ニ相成趣承知致候事トアリテ其警視第一方面第五分署ニ於テ申立タル口供中今泉己之助方ニ忍入り五布蒲團壹枚竊取シ云々尙又同月廿九日兼テ懇意セル清水兼吉發言元大坂町ニ

明治十二年二月二十六日於同所同科ニヨリ懲役七十日ニ處セラ
 自分儀前書ノ如ク御處刑受ケ明治十二年五月六日滿刑放免ノ後定
 居タル住居モ無之故神田佐久間町邊名前不知旅人宿へ兩日宿泊同
 八日午前十時頃該家立出兼テ懲役場ニテ懇意ニ相成タル王子村並
 木芳右衛門方へ參ルヘクト存シ本郷通りヨリ駒込ヲ通り午後二時
 頃上中里村ノ田歩中ヲ通行ノ折柄屑買者二人蒲團二枚籠ノ中へ
 入レ携へ來リ候ニ付右品代金貳拾錢ニテ買取自分所持ノ風呂敷へ
 包ミ夫レヨリ王子村ヲ指半丁程立越候場合名前不知男一人追駈ケ
 來リ泥ボルト聲掛ケ續テ村内ノ者相見タル數人集來リ取押ヘテ
 レ巡行ノ巡查へ被引渡候事ニ付該男ヨリ所持金僅
 前書ノ蒲團一枚ハ三布ニテ一枚ハ二布ニ有之且自分其節所持金僅

四厘ニ有之候然ル處前件ノ蒲團ハ自分上中里村榎本市五郎方ニ於
 テ盜取タル旨今般御糺受ケ候ヘ且自分ニ於テ盜取タル覺毛頭無之
 屑買ノ者ヨリ全ク買取候事ニ付該男ヨリ所持金僅
 懲役場ヲ出テ節雇工錢六錢壹厘受取候迄ニテ其余所持金三錢毛無
 之候事ニ付該男ヨリ所持金僅
 明治十二年五月二十日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
 其方儀携帯セル蒲團ハ代價廿錢ヲ以テ紙屑買ノ者ヨリ買取タルニ
 テ盜取タル覺無之旨申立ルト雖モ懲役滿期後未ダ住所モ定メテ何
 ノ業ニモ就カズ僅カニ拾錢未滿ノ金ヲ懷中ニ客運ニ投宿スルノ際
 ニ於テ何ソ該蒲團ヲ買取ノ謂レアラシヤ且事主榎本市五郎長男春
 吉及榎本長次郎ノ申供並ニ捕得タル巡查塚原勝包ノ証言ニ依レ
 ハ必ズ榎本市五郎方ニ於テ盜取タルモノト認定ス因テ右科竊盜條

ニヨリ窃盜三犯贓金五拾圓以下ナルヲ以テ懲役十年申付ル
 淺吉ニ於テハ右ノ處斷ニ服セス明治十二年五月三十日大審院ニ差出
 シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
 自分儀不服ヲ以所ハ曩ニ犯罪ノ廉之レアリ服役罷在候處既ニ本年
 五月六日滿期放免相成候ニ付在監中贈與物等致吳候知人萩原政之
 助方ニ謝禮勇罷越夫ヨリ王子村ニ罷在候並木由右衛門方ニ尋可參
 下存同月八日王子村通行ノ際於同所紙屑買ノ者ヨリ木綿舖(原ノ)浦
 團一枚代價金廿錢ニ買受尤該金圓ハ自分知己ノ渡邊寅吉ト申者ニ
 借受申候其際同居所等相尋候處本柳町玉屋ト申客廬ニ罷在趣承
 知致候夫ヨリ該浦團携帶致シ並木由右衛門方ニ可罷越途中突然第
 四方面第二分署ニ拘引セラレ同署ニテ御糺問之節前條ノ通實際申
 立候處該品ハ遂ニ全ク買求候ニ相違無之口供ニ捺印仕猶又第三課

并東京裁判所ニ於テモ同様申立候ヘモ法官毫モ御採用無之ノミナ
 ラス偏ニ巡查塚原勝包及ヒ事主榎本市五郎外二名ノ申供ヲ容レ御
 處分相成候ハ甚以テ謂レナキ義ニテ所謂言路壅蔽下獄壓スルハ裁
 判ト乍恐思惟仕候若シ又巡查塚原勝包外三名ノ言供ハ眞實ナル
 トセハ素ヨリ服セサル自分ニ御對審ノ上御推究アツテ至當ナリ
 存候故ニ今般ノ犯罪ハ曾テ不覺義ニ付冤枉ト謂セラル得ス因テ東
 京裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレ更ニ正明至當ノ御裁判被成下度謹テ
 奉願候
 大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ
 上告人木村淺吉カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス
 木綿敷浦團代價貳拾錢ニテ紙屑買シ者ヨリ買受テ右金圓ハ本柳町

玉屋ト申客塵ニ罷在ル趣承ル渡邊寅吉ヨリ借受ケタルトノ事

辨明

木村淺吉カ明治十二年五月六日懲役滿期放免後同月八日王子村通行ノ際紙屑買ノ者ヨリ木綿敷蒲團代價金貳拾錢ニテ買取該金圓ハ渡邊寅吉ヨリ借受ケタル旨申立ルト雖モ淺吉カ東京裁判所ニ於テ爲シタル口供第四項前書ノ蒲團一枚ハ三布ニテ一枚ハ二布ニ有之且自分其節所持金僅四厘ニ有之候云々第五項懲役場去出ル節雇工錢六錢壹厘受取候迄ニテ其余所持金壹錢モ無之候トアリテ他ニ所持金ナキトハ自カラ明言シタルモノナレハ今更金貳拾錢ハ寅吉ヨリ借受ケタルト申立ハ相立サルモノトス而シテ淺吉カ取押セラレタル場合ノ景況ハ榎本春吉及ヒ榎本長次郎カ警視第四方面第二分署ニ差出シタル始本書ヲ閱スルニ左ノ如シ

榎本春吉始末書 明治十二年五月九日

明治十二年五月八日正午十二時頃老人一名留守居ニ差置居宅ヨリ二三丁程離レ居候田地ニテ農業致シ居候午後二時頃往還無之田ノ畔ニ於テ年齢三十歳位不見知男布團二枚風呂敷ニ包ミ居ルヲ隣家榎本長吉見認メ應答致シ居候ヲ私義傍ヲヨリ見受テ候得共所有品ニ似寄リ候故取急キ立歸リ候處私母義其前立戻リ居候只今留守居ノ者縁側ニ物音致シ候ニ付立出テ見候得ハ干置候布團二枚無之ト申ニ付被盜取候義ト心付追駈テ候處折能巡查方御巡行ニ付其段申上候得ハ私所有ニテ被盜取候布團二枚持居候木村淺吉御取押ニ相成候義ニ有之右始末申上候通相違無之候以上

榎本長次郎始末書 明治十二年五月十日

右奉申上候明治十二年五月八日午後三時頃私所持之田地ニ於テ

農業致居候處へ不見知男一人蒲團二枚何レヨリ持參致風呂敷
 へ包ミ居候ヲ私見受右男私ニ向テ何ヲ見居候旨申掛ケ候ニ付私
 義右蒲團相見候テ如何哉ト申答ニ右男此品ヲ見テ不宣申
 ニ付私ニ於テ見テ惡シクハ何レニトモ勝手ニ可致申答候得ハ右
 男申ニ全ク買求候品故是迄ノ雜言申譯ケ無之申送往還
 出申候間右御尋ニ付始末奉申上候也
 本文之布團ハ同村榎本市太郎方ニテ同日被盜候品之由ニテ同
 人悴春吉追駈ヲ參リ同所ニ於テ村内ノ者大勢取圍ニ取押候處
 木村淺吉ト申者ニ付巡查方ニ御引渡シ申上候義ニ御座候以上
 右ニ據テ見ルモ淺吉カ田ノ畔ニ於テ蒲團二枚風呂敷ニ包ミ居候
 長次郎カ見認テハ事主榎本市五郎居宅ヨリ一丁程隔テ居候ニシ
 テ該場所近傍ニ紙屑買ハ居合セサルノミナラス長次郎カ蒲團ヲ打

眺メタルヲ見テハ不宣ト淺吉カ申聞ケタルハ不正品ニ非ラサレハ故
 ラニ右等ノ言ヲ發スヘキ理由ナキモノト故ニ東京裁判所ニ於テ
 淺吉カ所持スル蒲團二枚ハ榎本市五郎方ニ於テ盜取タルモノト認
 定シ竊盜條ニ依リ竊盜三犯贓金五拾圓以下ナルヲ以テ懲役半年
 處斷シタルハ不宣ノ裁判ニ非ラストハ
 判決
 右ノ如クナルニ因リ明治十二年五月二十日東京裁判所ニ於テ木村淺
 吉ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スル者
 也

第三百六十五號

○判文[詐欺取財ノ件]明治十一年十一月[日不詳]上告
 明治十二年九月廿六日判決

三重縣紀伊國牟婁郡柳

原村平良喜多正伯附籍

土屋正豐藏

明治十一年八月
十八年四月

右豐藏ガ明治十一年八月十日大阪裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左
ノ如シ
自分儀十二歳ノ頃既ニ兩親ヲ失ヒ爾來親籍喜多正伯ノ厄介ニ相成
十三歳ノ時ヨリ同人ノ世話ヲ以テ大阪府下幸町通二丁目材木並炭
商富士田九平方ニ相雇ハシ居候中明治十一年四月二十五日雇主九
平方共々相働キ居候際忽然不良心ヲ生シ金子盜取候上土州讚州邊
見物致度ト存シ付キ候折柄幸町三丁目兩替商富岡ヒサ方ニハ豫テ
九平方ヨリ預テ置候金子有之入用ノ節通帳持參致候ハヒサ方ヨリ相
渡シ候儀常々承知致居且又右通帳ハ九平妻テル下申者自ラ保管致

居候ヘヒサ方ニテ勘定ノ爲メ通帳入用ノ節ハ木札ト引替ニテ雇
主ヨリ貸渡シ候習慣ニ付差當リ木札ニ札贖造シ上通帳取出候儀ハ
志願成就致ス可キ旨相考ヘ翌二十六日贖造ノ儀ハ押包ニ九平方出
入ノ大工ニ相頼シ木札一枚製造致シ候性九平方ノ店判ヲ押シ豫
テヒサ方ニ預ケ置候木札ト同様ニ取拵ヘ翌二十七日午前兼テ懇意
ナル難波村人力車曳業傳保彌助ニ面會シ上前顯ノ謀計相話シ土州
邊迄同行致ス可キ旨相勸メ候處右様ノ義ハ宜シカラサル旨ニテ相
諫メ候ニ付自分一人ニテ仕途ク可キ決心ノ上其日午後雇主九平方
不在ニ乘シ贖造ノ木札ヲ差出シ右ノ富岡ヒサ方ヨリ持來候旨申欺
キ九平妻ヨリ通帳受取候后直チニヒサ方ニ罷越シ雇主ヨリノ使チ
ル旨申僞リ金三百圓欺キ取直様傳保彌助方ニ立行キ金數ハ相話シ
不申候ヘヒ盜業ノ儀申聞ケ候處難波村百軒長屋仲芳助方ニ同道致

シ吳候ニ付明治十一年五月十九日迄同所ニ潜伏致居其節傳保彌助
 へ金貳拾三圓度々ニ相渡シ外ニ壹圓ハ彌助妻へ相渡シ壹圓貳拾錢
 ハ食料トシテ仲芳助方ニテ費用致シ其他衣類等買求メ候上明治十
 一年五月十九日彌助同道神戸へ罷越シ其節瀛車賃三拾錢自分
 立替相拂神戸着ニ上彌助立分以自分儀ハ瀛船ニテ讚州金刀比羅社
 へ參詣致シ一應神戸迄立歸リ又モ土州及讚岐邊徘徊罷在候中金子
 等モ相盡キ候ニ先非始メテ悔悟ニ上親族付添ヒ前條始末自首
 致候事
 右入口供三依リ明治十一年十月八日大阪裁判所於テ左以裁判テ申
 渡シヌリ
 其方儀雇主富士田九平カ金錢ヲ富岡ヒサ方ニ預ケ及ルヲ知ル九平
 妻「テル」ヨリ通帖ヲ詐取シ右ヒサ方へ持參ノ上九平ニ使命ノ旨ヲ

以テ金三百圓受取科改正雇人盜家長財物律ニ依リ懲役終身自首シ
 テ贓徴ス可ラサルヲ以テ犯罪自首律ニ照シ本罪ニ三等ヲ減シ懲役
 七年ノ處口供甘結後滯獄三十日以外ニ及フヲ以テ滯獄罪囚減役例
 圖ニ照ラシ曠過スル日數二十九日ヲ本罪内ニ算入シ懲役六年トシ
 百三十六日申付ル
 大阪裁判所檢事橋口兼三ニ於テ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十
 一年十一月^日不^詳司法省ニ具上シ旨趣左ノ如シ
 土屋豐藏本年八月七日詐欺取財ノ見込ヲ以テ及公訴候處同十月八
 日別紙宣告書ノ通處斷相成候抑該犯ハ罪案ニ見ユル通リ兼テ雇主
 富士田九平ト富岡ヒサ方^ニ金錢授受ノ証下^ニ木札ヲ贗造シ雇主ノ妻
 「テル」ニ向ヒヒサ方ヨリ持參スル旨申欺キ通帳取出シ直ニヒサ方
 行キ雇主九平ヨリノ使^ハ偽^シ金圓受取ル者^トシテ竊盜^ト情狀異

ニシテ詐欺取財律ニ論擬ス可キモノニテアラズヤ然ルニ雇人盗ヲ以テ斷決シタルハ不當ト存候依之明治九年本省第七號及三十號御達ニ依リ罪案寫關係書類相添意見具上致候也

大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ明治十一年十二月十六日ヲ以テ大審院ニ處分ヲ求メシテ左ノ如シ

該犯雇主富士田九平カ他ニ預ケアル金ヲ盗シ爲メ雇主カ會テ預リ入ト金錢ヲ授受スル所ノ証ヲ偽造シ通帳ヲ以テ雇主ノ使ナリト詐リ預リ入ヨリ詐取シタル金ハ雇主ノ財ナリト雖モ詐欺取財ニ係ルヲ以テ橋口檢事意見ヲ通大阪裁判所ニ於テ雇人盗家長財物條ニ依リ竊盜ヲ以テ處分セシムハ不當ノ裁判ト考量ス

右明治九年第八號公布ニ依リ司法卿ノ旨ヲ受テ書類差進候條御判決有之度候也

大審院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ

辨明

豐藏カ豫テ雇主富士田九平ノ金錢ヲ富岡ヒサ方ニ預ケアルヲ九平ニ於テ其金錢入用ノ節ハ通帳ヲ以テヒサ方ヨリ受取ルヘキ事情ヲ知リ九平ノ他行ヲ窺ヒ同人妻テルヲ欺キ通帳ヲ取出シ以テ九平使ト申詐リヒサ方ニ預ケアル九平ノ金三百圓ヲ欺取セシ罪ハ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ并ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ罪流三等ニ止ルトアルニ依リ懲役十年ノ處豐藏ハ自首シテ贓徵スヘカラサルヲ以テ名例律犯罪自首條末項ニ若シ自首シテ贓徵ス可カラサルハ二等ヲ減ストアルニ依リ懲役十年ヨリ二等ヲ減シ懲役五年ニ處斷スヘキモノトテ而シテ豐藏ハ口供甘結後滯獄三十日以外ニ及フヲ以テ滯獄罪囚減役例圖ニ照シ曠過スル日數

二十九日ヲ本罪内ニ算入シ懲役四年ト三百三十六日ニ處斷スヘキ
モノトス然ルヲ大阪裁判所ニ於テ豐藏カ罪ヲ斷スルニ改正雇人盜
家長財物律ニ依リ懲役終身ノ處自首シテ罪徵ス可カラサルヲ以テ
本罪ニ二等ヲ減シ口供甘結後滯獄ニ係ルヲ以テ滯獄罪囚減役例圖
ニ照シ懲役六年三百三十六日ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ナリト
大

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十一年十月八日大阪裁判所ニ於テ土屋豐藏
ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雇主富士田九平妻「テ」チ欺キ通
帳ヲ取出シ富田「ヒ」チ方ニ預ケアル九平ノ金三百圓ヲ欺取シ自首シ

テ罪徵スヘカラサル科賊盜律詐欺取財條及ヒ名例律犯罪自首條ニ

依リ懲役五年ノ處口供甘結後滯獄三條ルヲ以テ滯獄罪囚減役例圖

ニ照シテ懲役四年三百三十六日ニ處斷スルヲ以テ

第三百六十六號

○判文私ノ文書ヲ詐爲セシ件

明治十一年十一月廿九日上告

山梨縣甲斐國巨摩郡龍岡

秋山清太郎

明治十一年十月

右清太郎カ明治十一年十月廿九日靜岡裁判所甲府支廳ニ於テ審問シ

受テ口供左ノ如シ

自分儀甲斐國巨摩郡噺村平民田中茂重ヨリ同郡玉幡村平民藤川友造へ懸ル貸金催促ノ詞訟ニ付被告友造ノ依託ヲ受テ代人トナリテ明治十年四月二日ヨリ甲府區裁判所へ出頭セリ然ルニ友造ハ右ノ外處々ヨリ多分ノ負債アル由ニ付追々出訴セラレ自分へ代人ノ日當ヲ受取ルヲ相成ラサル様立去リテハ迷惑ニ付自分ヨリ同人へ金百貳拾圓貸付アル趣ノ証書ヲ作り置キ外債主共ヨリ出訴スル時ハ自分ヨリモ右証書ヲ以テ訴出テ分配金受取り日當ノ代リニ不度旨友藏へ申談シタルニ同人承諾ニ付友造儀明治九年十二月廿日自分ヨリ金百廿圓借受ケ明治十年三月三十日返濟期限ナル趣ノ証書ヲ認メ花輪保平ト覺ヘタル同村平民新海保平ハ友造知己ノ者ニ付私擅ニ同人ヲ証人ノ趣ニ記載シ友造ニハ調印セシメ保平名下ハ無印ノ儘受取置キタル所其後果シテ友造へ懸リ貸金催促ノ訴ヲナ

ス者數名有之ニ付自分モ右証書ヲ以テ訴出タルモ同人ニ於テハ一時ニ返金難相成ニ付債主共ト示談ノ上友造所有ノ宅地建家ヲ抵當トシテ自分証人ニ相立玉幡村平民小澤佐五右衛門ヨリ金百五十圓借受ケ債主共へ分配致シ自分モ金拾六圓拾七錢九厘受取ルヘキ割合ノ所其節佐五右衛門ヨリ友造へ借用金ノ全額ヲ受取ラサルニ付分配金不足セシ故自分へ受取ルヘキ金員ハ後日受取ルヘキ約定ヲナシ表向ノ受取リタル姿ニテ分配帳へ調印ヲナシ置キタリ然ルニ其後右金受取度旨數度催促ニ及フト雖モ友造儀渡方致サズ追々遷延罷在ル内田中茂重ヨリ猶又友造へ懸リ静岡裁判所甲府支廳へ出訴ノ末身代限ヲ以テ濟方相成タルニ付自分ヨリモ右証書ヲ以テ續ニ受取リタル殘金催促ノ儀訴出タルに既に掲示日限後ニ付願下イ

候事

一前條ノ如ク百貳拾圓ノ貸金証書ハ友造ヨリ日當ニ代ルヘキ分配金ヲ受取ル爲メ取設ケタル者ナレバ分配金受取リタル上ハ証書友造ニ返還スルニ豫テ相考居タレトモ受取方不相成ニ付証書モ返還セズ其儘所持罷有タル内明治七年十月七日甲府表ニ相越シ相生町旅店萬屋與七方ニ宿泊シ際友造并同村平民保坂幸平モ罷越シ夜ニ入市中ヲ遊歩シ未俱々飲酒致シタルニ友造ニ所持金無之趣ニ付酒肴料ハ自分幸平兩人ニテ相賄ヒ歸宿ノ上雜話中友造ニ對シ自分ハ手許ニ多分ノ金員ナキモ此書付一通持參スルニ直ニ金八圓ハ手ニ入ル旨申開ケ豫テ相生町滿田壽之ヨリ金八圓何時ニテモ受取ルヘキ旨ノ証書懷中シ居ルニ付右ヲ取出シ友造ニ示シテ下大宛際百廿圓ノ証書書類中ニアルヲ友造見認メ差戻スル旨申シテ手ヲ取リタル故取戻サシトシタレトモ終ニ同人ニ引取ラシ殘念ナ

カラ其場ハ捨置キ翌朝懷中紙入ヲ見改ムルニ金壹圓不足セリ右ハ友造ニ盜取ラレタル儀トモ確定シ能ハズ然レモ証書ヲ取戻サレタル殘念ニ存シタルニ付証書金圓共友造ニ盜取ラレタル旨ヲ以テ明治十一年七月十八日山梨縣廳ニ吟味願者トシ候事トシテ右吟味願中友造ハ失跡セシニ同人親族玉幡村平民藤川道齋儀自分ニ對シ友造ニ係リタル一件ハ是非ニ拘ラズ金七圓差出スニ付友造歸宅スルトモ一言ノ申分無之様致シ吳レテ就テ吟味願ノ儀ニ願下メタル吳ル様頼談有之ニ付承諾不ク其後山梨縣廳ニ願書差出シ金七圓ハ道齋ヨリ兩度ニ受取リ費用不ク候事トシテ明治十一年十一月十九日静岡裁判所甲府支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シテ其方儀藤川友造謀同入ニ金百廿圓貸付タル趣旨証書ヲ詐爲シ

テ受取置き其後同人田中茂重等ヨリ貸金催促ノ訴訟及ハ宅地其
 他賣却金百五拾圓ヲ分配シテ濟方致ス節右偽証ヲ以テ金拾六圓拾
 七錢九厘分配ヲ受ヌルハ表面ノモノニテ其實未タ受取ラサル旨
 申述スルモ何等証跡ナク然シテ受取簿ニ真正ノ証印アルノミナラ
 ス同人へ掛リ再度貸金催促ノ訴ヲナシタル節モ同金拾六圓餘ハ既
 ニ受取タル旨記載シ及ヒ糾問掛ニ於テ糾問ノ際モ眞實受取タル旨
 吐白セシニ因リ未タ受取ラサルトノ申供ハ不實ナリト認定ス仍テ
 賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役七十日申付ル
 但畑茂平次ノ滿田壽之ヨリ金圓借受ル証人トナリ其方發意ニテ
 無形ノ田地ヲ抵當ノ趣ニ記載シ刺ヘ山梨縣第三區龍王村ノ印ヲ
 偽造シテ右證書ニ押捺セシハ一ノ詐偽律偽造官印條ニ依リ官餘
 ノ印ヲ偽造スル者ヲ以テ論シ懲役一年可申付處自首スルニ因リ

其罪ヲ免ス

藤川友造へ貸金アル趣ノ證書ヲ詐爲シタルハ改定律例第二百四
 十六條ニ依リ不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日藤川道齋ヨリ金七圓貰
 受タルハ受賍律坐賍致罪條ニ依リ懲役二十日其罪ハ皆輕キニ因
 リ一ノ重ニ從テ科ス
 山梨縣令藤村紫朗ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十一年十一
 月廿九日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル上告狀ノ要領左
 ノ如シ
 當縣巨摩郡玉幡村平民藤川友造ナル者數多ノ負債アルヲ以テ債主
 ヨリ出訴セラレシ節前書清太郎ニ委任シテ代理トナシ清太郎ハ友
 造ニ於テ後日若シ財産拋棄ノ場合ニ至ラハ代理日當金ヲ受取能ハ
 スト思量セシヨリ兩名協議上ニテ清太郎へ金百貳拾圓ノ借用証書

ヲ渡シ置タリ其後ニ至リ友造ハ外債主ト協議シ解訴以上宅地建家
 ヲ抵當トナシ金百五拾圓ヲ借受ケ外債主共ニ分配シ清太郎モ金拾
 六圓拾七錢九厘ノ分配ヲ受ケ一時事濟ニトナレリ其後友造ハ於テ
 身代限リシ處分ヲ受ケシ節所有地ヲ取匿シ他ニ賣却シタル旨自首
 シテ以テ甲印書類ノ如ク静岡裁判所甲府支廳ニ公訴ニ及ビタル
 其旨明治十一年十二月廿日午後第三時二十分友造清太郎兩名共賊盜
 罪ヲ依リ乙丙印書類ノ如ク處斷シタリ然ルニ友造ハ賍
 金合算法ニ於テ其當ヲ得サル廉之レアリト雖モ管テ上告セシ江上
 米吉ノ書面ニ對シ違ヒテシテ之レ趣旨ニ依リテ罪ニ輕重差異ヲキリ
 以テ上告ノ原由不字ヲ得テ然レテ清太郎ハ處斷ニ至テハ裁判法
 律ニ違フ者トセサルヲ得サル也即チ破毀ヲ求ムルハ理由ニ左ニ陳
 述セシ

友造ニ於テ各債主ニ協議シ宅地建家ヲ抵當トナシ他ヨリ金圓ヲ借
 受ケ各債主ニ内金ヲ返却セシメ固ヨリ人民互相ノ契約示談上出
 ル者ニテ假令友造ニ於テ其金圓ノ内若干ヲ費用シ或ハ他人ニ與
 フルモ其間約定証無之中ハ各債主ニ於テ之ヲ如何トモ不能ハサ
 ルヘシ何トナレハ宅地建家ハ友造ノ所有ナル所ナリ所有ハ宅地建
 家ヲ抵當トナシテ借受ケタル金圓ハ友造ノ私有金ナリ私金ヲ以テ
 他人ニ與フルモ何ヲ以テ之ヲ不當トカス得ハ況シ友造ハ清太
 郎ニ代理ヲ委任セシ者ニテ即チ費用金ヲ出スル責ヲ負ヒ清太郎
 之ヲ受取ノ理由アルハ論ヲ待タズ然ラズ財產拋棄ノ際受取ルモ以
 前ニリ貸金証書ニ認メ置テ之ヲ受取ルモ兩名協議書出テタル上ハ
 授受ノ間ニ妨害ナキ者ト云サルヘカラス夫レ詐欺ノ言タル之レニ
 對スル者アルノ謂ニシテ被害者ナクシテ固ヨリ詐欺ト云フベカラ

夫清太郎ノ詐欺ニ罹リタル者ハ何人ヲ指ス歟蓋シ友造ノ各債主ハ
 暗ニ損害ヲ受タルニ似タリト雖モ該件ノ如キハ友造ノ私有金ヲ以
 テ各債主ニ協議シ負債ノ内金ヲ返濟セシ者ナレハ清太郎ノ詐欺セ
 シ者ト見做スヲ得大且今上告スルノ主眼ハ此一點ニ止マルヲ以テ
 推シテ他ノ事ニ及ホサスト雖モ宣告書ニハ友造ノ宅地建物賣却金
 百五拾圓ヲ分配シ云々トアリテ口供ト相違セリ抑賣却ト抵當トハ
 其實ヲ異ニシ賣却セシ上ハ其所有權利ヲ失ヒ抵當トナシタルハ所
 有ノ權利ヲ存スル者ニシテ後日之ヲ賣却セハ幾干ノ價ヲ得ルモ知
 ルヘカラス當時未タ友造ノ財産ヲ拋棄セシニアラザレハ純然タル
 友造ノ宅地建家ナリ宅地建家ヲ抵當トナシテ内金ヲ返濟セシハ未
 タ財産ノ拋棄セサルモ他ニ返濟ノ方法ナキニアラスト思惟セシ者
 ナラン且其宅地建家ヲ抵當トナシタルハ友造ノ資力ヲ尽シタルニ

ハアラズ然ラハ前ノ分配金拾六圓拾七錢九厘ハ兩名ノ協議上ニテ
 授受セシ金額ニシテ他ニ詐欺セラレタル者ナシト認ムルハ
 前ニ歷述スル處ノ法理ナルヲ以テ甲府支廳ノ公判ハ法律ニ違フ者
 ト確信シ明治十年第十九號公布ニ依リ此段及上告候
 大審院詰兼務檢事長岸良兼養ハ明治十二年二月十日ヲ以テ大審院
 處分ヲ求メシテ左リ如シ
 該犯藤川友造カ債主ニ出訴セラレ代理ノ委任ヲ受ケタルニ友造ハ
 數多シ負債アリテ之レカ爲メニ代人ノ費用ヲ辨スル能カ分能カ慮
 リ豫メ友造ニ約シ代金証書ヲ詐爲シ他債主ト同ク分配金ヲ受領シ
 以テ代人ノ費用ニ充ルモ友造カ所有ノ内ヲ隱匿セシメ且其受ル可
 ラサル金ヲ得タルニアラザレハ詐欺取財ヲ以テ論スルハ情理ヲ得
 ス止マ其實ニアラサル文書ヲ詐爲シタルハ例第二百四十六條ニ

依リ不應爲輕キニ問擬處分ス可キ者トス因テ靜岡裁判所ノ裁判ハ
 不當ナリト考量ス
 大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ
 秋山清太郎カ藤川友造ヨリ依托ヲ受ケ代理人ト爲リ友造ノ爲メ負
 債償却ニ周旋スルノ折柄清太郎ニ於テハ目下友造カ負債ノ數多ク
 ルヲ見テ若シ後日身代限リノ場合ニ至ラハ代理目當金ヲ受取ルコ
 能ハズト思量セシヨリ友造ト協議ノ上友造ニ貸金アル体ヲ証書
 ナ詐爲シ清太郎ニ受取置キ其後ニ至リ友造儀外債主ト示談解訟シ
 友造ニ於テ他借セシ金百五拾圓ヲ各債主ニ分配内金返却ノ時清太
 郎モ右詐爲セシ証書ヲ以テ金拾六圓拾七錢九厘分配ヲ受ケタリト
 雖モ抑モ右金タルヤ友造カ私有ノ宅地建家ヲ抵當トシ借リ得タル

所ノ金圓ナレハ之ヲ他人ニ給與スルトモ素ヨリ不當ト云フ可カラ
 ス又々清太郎ハ友造ヨリ代理ノ委托ヲ受ケ爲メニ奔走勞力セシモ
 シナレハ其受クヘキ理由アリテ後キ之ヲ受領セシモ詐爲ス左ノレ
 ハ右清太郎カ該貸金証書ヲ詐爲シ因テ分配金ヲ得シハ詐欺トテ人
 ノ財物ヲ取リシ者トナス可カラズ友造ヲ同意セシメ貸金証書ヲ詐
 爲シタル罪ハ改定律例第二百四十六條凡私シ文書ヲ詐爲スル者
 情狀量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ照シ處分スルコト又友
 造ニ係リ吟味願フ件ニ關シテ藤川道齋ヨリ金七圓貰ヒ受ケシハ受
 賍律座賍致罪條凡枉法不枉法ノ事ニ因リ財ヲ受ルニ非スシテ賍ニ
 坐シ罪ニ致ス者ハ通算シテ罪ヲ科ストアルニ準擬シ賍金五圓以上
 懲役二十日ニ處ス可ク畑茂平次カ滿田壽之ヨリ金圓借受ル証人
 ナリテ自ラ發意シ無形田地ヲ抵當ニ記載スルノ事ナラズ龍王寺ノ

村印ヲ偽造シテ其証書ニ押捺セシ罪ハ詐偽律偽造官印條餘ノ印ヲ
 偽造スル者ヲ以テ論シ懲役一年ニ處ス可キモ事未發ニアツテ自首
 スルニヨリ名例律犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ免ス可キモノトス
 右二罪以上併發スルニ依リ二罪俱發以重論條凡二罪以上俱ニ發覺
 スルハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ下有ルニ照シ一ノ重キ村印ヲ偽造ス
 ル科ハ首免ヲ與フルニ付キ第二罪私ノ文書ヲ詐爲スル科懲役三十
 日ニ處分ス可キモノトス然ルヲ静岡裁判所甲府支廳ニ於テハ右清
 太郎ノ罪ヲ斷スルニ私ノ証書ヲ詐爲スル罪及ヒ坐贓致罪トナシテ
 シタルハ裁判其當ヲ得タルト雖モ更ニ清太郎カ友造ヨリ受領セシ
 所ノ金拾六圓餘ヲ以テ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ
 懲役七十日ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十一年十一月十九日静岡裁判所甲府支廳ニ
 於テ秋山清太郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル丁左ノ如シ

秋山清太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ私ノ文書ヲ詐爲シタル罪ト坐贓
 致罪ト二罪併發セルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ私ノ
 文書ヲ詐爲シタル科

懲役三十日

村印ヲ偽造スル罪ハ事未發ニアツテ自首ナルヲ以テ其罪ヲ免
 ス

第三百六十七號

○判文費用受寄財産ノ件明治十一年十二月十一日上告
 明治十二年九月廿六日判決

大坂府攝津國西成郡會

根崎村岩本卯吉方同居

平民

益田利助

明治十一年十一月
三十八年三月

右利助カ明治十一年十一月二十八日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタ
ル口供左ノ如シ

自分儀米商仲買業ノ者ニ有之候處當明治十一年五月中當府下堂島
濱通一丁目十九番地ニ於テ藤井善助桃井〔原〕友七土井庄次郎伊藤
茂七ノ者共共立社ヲ設立シ〔此ノ共立社ハ官ノ許可ヲ經テ〕米商仲買開
業致候ニ付右店方へ一ヶ月給金五圓約定ヲ以テ被相雇爾來店方取
引万端出精尽力致居候處明治十一年八月三十日ニ至リ何故カ不都合
ノ廉有之トテ退身被致甚不滿ニ存居候折柄佐伯伊兵衛金子茂兵衛

ノ兩人仲裁ニ立入り手切金トシテ貳拾圓持參ラレ候へ共無譯店方ヲ
退ル可キ理由無之ト申慕リ右金員ハ差戻シ然ル處曩ニ該社ニ被雇中
明治十一年八月中日不覺前書堂島濱通一丁目十九番地ニ建家ハ江戸
堀南通二丁目松井チカ所有ノ扣家ニ候處該建家一ヶ所代價六百五
拾圓ニ社中へ買取ル可キ約定相成タルニ付社中ノ金五拾圓ヲ以テ
自分并金子茂兵衛ノ兩人ヨリ手付金トシテチカへ相渡其節買取主
ハ藤井善助ノ名當ニシテ證書取置キタル處該建家社中ヨリ買取置
キ候テハ他日計算上取纏レノ都合有之ニ付社ニ不拘桃津友七土井
庄次郎藤井善助ノ三名ニテ買取ルコトナリタル故右建家代價六百
五拾圓友七庄次郎善助ノ三名ヨリ出金其金員自分ニ受取曩ニチカ
へ相渡セシ手付金五拾圓ヲ引去リ殘六百圓相拂ッタルニ付殘リ五
拾圓ノ過金ハ自分手元ニ所有セシ處曩ニチカへ手付金相渡シタル

五拾圓ハ社中ヨリ出金セシニ付右五拾圓ノ過金ハ社中へ可差戻様
 善助其他ノ者ヨリ被申聞素ヨリ社中へ可差戻金員ニハ候へ共熟々
 考フルニ米商開業ノ日ヨリ粉骨勉勵致居候處無故退身被致餘リ慘
 酷ノ致方ト存シ右五十圓ノ過金ハ自分被雇中ノ謝禮トシテ貰受候旨
 詐言申張リ候處終ニ藤井善助ヨリ檢事局へ出訴セラレ御吟味ノ節モ
 前同様強情申居候處尙糺問掛ニテ御調ヲ受ケ右始末有体申上候事
 右ノ口供ニ依リ明治十一年十二月四日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判申
 渡シタリ

其方儀藤井善助外二人ヨリ預リシ金圓被雇中謝金トシテ貰受ケタ
 ルト詐言シ己ノ者ト爲ス賍金五拾圓ノ科詐欺取財律人ノ財物ヲ冒
 認シテ己ノ物トナス者ニ擬シ竊盜ニ準シテ懲役一年申付ル
 但右金員ハ取揚ル

利助ニ於テハ右處斷ヲ不服ナリトシ明治十一年十二月十一日大審院
 ニ差出シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

一堂島濱通一丁目ニ於テ藤井善助桃津友七土井庄次郎伊藤茂七
 中通^ニ及私共ト共立ニテ米商社壹等仲買營業ノ原由タルハ其基該
 名ノ者トハ格別ニ交際厚中ヨリ米商道ノ事柄ヲ進メ候處各名ノ曰
 シ然レハ萬事擔當可致旨私へ依頼有之既ニ共立社ノ規則ヲ設ケ各
 資本金出金高ニ株分致候處私義ハ身薄ニ付漸ク五株ヲ相持既ニ示
 談相調當明治十一年五月廿日開店仕候ナリ
 但シ壹株ヲ拾圓ト定百株ニテ一千圓トナルヲ各資本金ニ据置可
 申定約トハ申ナカラ各出金致者ハ無之候得共開店來ノ利益金ハ
 各名株數ニ割付精算可致定約ニ候
 一藤井善助土井庄次郎桃津友七三名ニテ松井チカ^ニナル者ノ扣家ヲ

當明治十一年八月五日各名金六百五拾圓ニ買取ル決談ニ相成直ニ
 店方ニ有之共有金五拾圓夫手付金ニ相渡候ナリ尤モ共有金ト唱ヘ
 シ金ヲ取ルヤ店方徳益金ナリ
 一當明治十一年八月三十日ニ共立ノ各名ヨリ私ニ故ナク退身ヲ申
 出ルニ付其意量解難仕下ハ申ナカラ抑發端ヨリ粉骨勉勵盡力ノ私
 ナル事照明ナリ然レモ各名申出ニ任セ退身ハ仕尤カラ實ニ不滿ニ
 存居申處最前該家買取ルニ定約決議ノ際共有金五拾圓ヲ手付金ニ
 相渡シ置候所既ニ跡金六百圓相渡シ期日ニ至リ則三名以者ヨリ六
 百五拾圓ヲ請取戸長役場ニテ六百圓ヲ賣主松井ニテ相渡候ニ付
 五拾圓金ニ全過金ト相成直ニ三名ノ内ニ差出シ可申答ノ處前顯
 如ク故ナク退身申付ラレ候ニ就テハ該店ヨリ私ニ受取金額有之ニ
 付計算差引ノ義屢々申入ルレモ唯々遷淹相成ルニ付該五拾圓其

儘私手元ニ預リ居申儀ニ候ナリ

一該五拾圓ヲ謝禮ニ貰ヒ候トハ申ナカラ其實全私手元ニ請取可申
 金員ニ差引殘金高百六拾五圓五拾錢也
 一該五拾圓ニ預リ居申儀ニ候ナリ
 三日前マテ七月切攝津米賣買ノ利金也
 一圓此金六圓ハ共立ノ開店來買殖シノ物品代價四百圓ノ見積
 一割當ルモナリ此金ナリ永井利平ハ貸付金ヲ有金ノ抵當ニ私
 一當ルモナリ此金ナリ永井利平ハ貸付金ヲ有金ノ抵當ニ私
 一割當ルモナリ此金ナリ永井利平ハ貸付金ヲ有金ノ抵當ニ私
 一害ヲ生シ店方ヨリ物計三五百圓居申此代價三十五圓ハ私
 一ナリ差引計算右ノ如ク此金タルヤ該店ヨリ私受取可申金額然
 一ニ右手付金ノ五拾圓ヲ接續可致心積リニテ有之處ニ佐伯伊平金子
 一茂平ノ兩人貳拾圓ノ金ナリ封トナシ互ノ差引計算ハ無論トナシ此
 一金ハ是迄ノ謝禮ナリト差出シ候得共前顯ノ如私ニ受取金員有之ニ
 依リ直ニ之レヲ返シ其后ハ計算金相渡シ吳可キ旨數度促シ候得共

一向瑛明不申ニ付不得止各名へ私ヨリ引合書指入候ナリ
 一私ヨリ各三名へ引合書差入レシ處各名ニ成變リ藤井善助ヨリ私
 請取金員ヲ打消スルメ五拾圓取込金杯ト唱へ引合書差出シ候ニ付
 答書ニ及候ナリ(尤答書中ニ私ヨリ檢事御局へ出願ニ及シ處當局然
 ニ採用ス可キ事件ニアラスト有テ却下ト相成候)
 ルニ藤井善助ヨリ上願ニ及シ處御採用ト相成長谷川殿御係リニテ
 屢々御調有之ト雖モ前願ノ松井チカヨリ買取以來萬事周旋並ニ府
 下北久太郎町貳丁目島津清助方へ該家抵當ニ差入候世話亦ハ買家
 名前主桃津三藏幼童ニ付諸事私へ委託ノ云々モ有之爲其謝禮ニ申
 受ケシ物ト上申致候右御調中私隣家ニ居住ノ松浦昇仁ト申者中裁
 致吳藤井善助代理福富源藏ナル者へ屢々掛合ヲ盡シ終ニ和解ニ至
 リ既ニ本年十一月二十日檢事御局へ原被同道ニテ願下ケノ爲出頭
 可致ニ結局仕候處豈圖ラノ糺問御課ヨリ御呼出シニ相成出頭致候

處藤井殿御係ニテ該五拾圓ノ義御取糺有之ニ付原被熟議相調和解
 ニ及候趣上申仕ト雖モ御取上ケナクシテ御調ニ相成候ニ付以前ノ
 如ク謝禮ノ旨御答上申仕ル處藤井殿御説諭ニハ該金ハ賞ヒシ物ニ
 アラス之レ全ク故ナキ退身ヲ意恨ニ心得返金ヲ拒ミシモノナルト
 是ヲ見做故ニ該金返金ナサハ最早事濟ニ相成ルトノ御辭令ナリ尤
 私ニ於テ請取ル可キ金員ノ義御尋ニ及ヒシ處夫ハ筋違ノ金ナレハ
 速ニ五拾圓ヲ返シ取ル可キ金ハ求請スヘシトノ御説諭ニ隨ヒ其事
 柄ノ口書ニ押印仕候ナリ
 一其后ニ至リ刑事御課ヨリ御呼出シニ相成出頭候處倉町殿御係リ
 ニテ御調ニ相成該五拾圓直ニ上納可致旨御申聞ケニ付該金速ニ上納
 致シ置其后私ヨリ互細上申仕候處御聞取ノ上前口書ト御認シ換ニ
 相成候ニ就テハ最早無故事濟ニ相成ト心得何心ナク押印仕候處

ニ處セラレタルハ不服ノ旨申立ルト雖モ利助カ曩ニ入社中社中ヨリ預リタル金五拾圓ハ特ニ預リタルモノニシテ縱令利助カ株金差出シ之レアル共一己ノ存意ヲ以テ猥ニ差引計算ハ相成ラサルモノナリトス然リト雖モ利助カ藤井善助外二人ヨリ預リシ金五拾圓ヲ善助等ヨリ返濟催促受クル場合右ハ謝金トシテ兼テ貰ヒ受ケタルモノト詐言シタル罪ハ雜犯律費用受寄財産條凡他人ヨリ財物蓄産ノ寄託受ケ輒ク費用スル者ハ云々死失ト詐言スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シトアルニ依テ論シ賍金五拾圓竊盜條ニ照シ懲役一年ヨリ二等ヲ減シ懲役九十日ニ處スヘキモノナリトス然ルニ大坂裁判所ニ於テハ詐欺取財律人ノ財物ヲ冒認シ己ノ物トナス者ニ擬シ竊盜ニ準シテ懲役一年ト處シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十一年十二月四日大坂裁判所ニ於テ益田利助ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

益田利助

右ハ前ニ辨明スル知シナルニ因リ人ノ財物ヲ預リ貰ヒ受ケタルト詐言スル科費用受寄財産條死失ト詐言スル者ヲ以テ論シ竊盜ニ二等ヲ減シ

懲役九十日

但賍金五拾圓ハ追徴シ本主ニ給ス

第三百六十八號

○判文竊盜ノ件明治十二年二月六日上告
明治十二年九月廿六日判決

福岡縣豊前國郡名不知

宇ノ島出生

當時無籍苗字不知

卯市

明治十一年十一月
二十五年六月

右卯市カ明治十一年十一月一日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受タル口供
左ノ如シ

自分儀肩書字之島ニ於テ出生八歳ノ頃母死去シ十二歳ノ頃利七ニ
誘ハレ山口縣下下ノ關ニ立越同所ニ寄留致居候處十七歳ノ時ニ至
リ父利七一同豊前中津ニ轉住其后明治六年六月中父利七四國伊豫
ニ罷越候由ニテ立出候付自分壹人殘リ居筆墨等商賣歲月未送り候
處父ニ一別后數ヶ年間終ニ消息モ無之安否如何下苦慮致居候處父
利七ハ當時大坂府下ニ罷在候趣傳承頻ニ懷慕ノ情差發リ而會致度
明治九年十一月日失念中津出立長州下ノ關ニ渡リ夫ヨリ旅費用意

ノ爲メ長州藝州路ヨリ四國ヲ掛ケ筆墨等商業徘徊中明治九年十二
月廿八日藝州廣島三因社古榮丸ニ乗込當地ニ立越滞阪中明治十年
二月三十一日被召捕警察本署ニ於テ明治九年十二月二十六日山口
縣下大原村中村嘉左衛門方ニテ廣嶋縣下第三大區四小區中ノ村加佐
美三郎右衛門善兵衛所持ノ金三百七拾圓外物品盜取タル旨御審問
ヲ受候ヘヒ素ヨリ覺ヘ無之儀ニ付自分ノ所業ニ非サル段辨解致候ヘ
共更ニ御聞立無之再度嚴重ノ御取糺ニ付不得止自分盜取リタル旨
一時不實ノ口供ニ捺印致シ候處終ニ當檢事局ニ御引渡ニ相成績テ
御審問ヲ受ケ自分所持セシ五巾木綿紺風呂敷ハ事主善兵衛金品盜
取タル際一同紛失セシ物品且廣島縣下佐伯郡河野村阪本和助幼女
賞ヒ受タル金巾小風呂敷是亦一同紛失セシ品ナレハ該金員等果シ
テ自分竊取セシ所業ニ可有之且ツ明治九年十二月二十五日夜島根

縣下石見國鹿足郡六日市大黒屋岩五郎方ニテ事主善兵衛自分同宿セシ旨申立ル由ニ付定テ該所ニ止宿セシニ相違有間敷旁御審問ニ候ヘニ五巾紺木綿風呂敷ハ自分ノ所持品ニ有之且阪本和助方ニ立寄リ又ハ同人幼女ニ金巾小風呂敷ヲ與候儀ハ勿論尙島根縣下石見國鹿足郡六日市大黒屋岩五郎方ニ止宿セシ儀ニ無之前顯ノ次第ニ付自分ニ於テ決テ盜取タル覺ヘ無之ニ付警察署ニテ御取調ノ未口供ニ摺印シタルハ御取消奉願候

明治十二年一月二十八日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタル其方儀明治九年十二月廿六日山口縣下大原村中村嘉左衛門方ニ於テ佐美善兵衛所持ノ金品盜取リタル覺無之儀ニ大阪府警察署ニ於テ口供ハ嚴責ヲ受テ不得止摺印セシ旨申立ルト雖モ現今所持セル五巾木綿風呂敷ニ木綿白糸ノ縫目アル事主善兵衛方申立ル該金

圓ト俱ニ紛失セル風呂敷ト全ク相符合シ又阪本和助カ幼女ノ其方ヨリ貰ヒ受シ金巾小風呂敷ハ贓品ノ内ヨリ分與シタル事並ニ明治九年十月二十六日ニ善兵衛ト大黒屋岩五郎方ニ同宿セシ義ハ和助並ニ岩五郎ノ申立ニ就キ判然セリ右證據ニ由リ金品盜取リシ情狀確實ナルヲ以テ竊盜律ニ依リ竊盜贓金三百圓以上ナルヲ以テ懲役終身申付ル

但盜贓ニ係ル金品ハ取上ル
卯市ニ於テハ右ノ裁判ニ服セス明治十二年二月六日大審院ニ差出タル上告狀ノ旨趣左ノ如シ
私儀明治九年十二月廿五日舊岩國領名桑村三盞屋ト申宿ニテ一泊其夜合宿岩國城下ノ女傭人伊豫國版刻職ノ者壹人ニテ該家翌廿六日午前第八時頃出立同日廣島縣下佐伯郡淺原村勝間庄平方ニテ一

泊其夜合宿肴商壹人何商カ知ラサル者壹人ニテ該家翌廿七日午前第六時出立同日同國佐伯郡大竹沖ノ濱ト申處ヨリ船ニ乗ラントスル際過テアイメヲ踏ミ外ニ氷中ニ墜テ衣類其外所持包等濡シ候處同船ニ乗合人東京府下茶商勝次郎同人ノ僕ト二人ヨリ自分衣類其外所持包等濡シ候ヲ見兼テ木綿風呂敷一ツ金巾風呂敷一ツ足袋一足之三点ヲ貰ヒ受ケ廿八日午前七時頃廣島西本川ニ着シ衣類所持物等濡シ居候ニ付其日滯留廿九日午前八時頃西本川ノ三因社ノ古榮丸ニ乗込三十年二月五日ニ大阪府下ニ着シ同月三十日迄父ノ在所ヲ搜索中同府下西横堀ニテ捕縛セラレ警察本署ニ御拘引ノ上自分出生取糾サレ候ニ付則生國有跡申上候處山口縣下大原村ニ於テ窃盜相働キ候廉速カニ申立ヘキ旨御申聞ニ付聊覺ヘ無之旨申上候處其後三日計リ經テ強問ニ相成候得共更ニ覺ヘ無之段申上候處ニ

月四日午前賀佐美善兵衛ナル者ト突合セニナリ自分ト同人ノ顔知ル哉否哉御申聞セニ付不知旨申上候處同日又候強問嚴敷身體耐ヘ難キニ付止ムヲ得ス前顯全ク窃盜相働キ候旨申立則其口供ニ拇印シ其後大阪裁判所檢事局並ニ刑事課ニテ御尋問ノ節前顯警察本署ニ於テ申供候ハ糾問嚴敷ヨリ不實ノ罪承服仕候事ニテ全ク窃盜相働キ候覺無之且石州島根縣六日市大黒屋岩五郎ト申方ニ泊リ候事無之又山口縣下三大區大原村ト申所ニ參リ候コトモ無之旨申上候處自分申立ノ通口供ニ拇印致候儀ニ有之然ルニ今般前書勝次郎ヨリ貰受候風呂敷ヲ証據トシ窃盜三百圓以上懲役終身御申付ニ相成候得共不服ニ付上告仕候間今一應御裁決被成下度此段奉願上候也

大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

上告ノ主點

上告人卯市ヲ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス
 大坂府警察署於テ吟味ヲ受ケタルモハ嚴キ強問ヲ受ケシニ因リ
 事實ニ相違セシ口供ヲ摺印セシ付大坂裁判所於テ懲役終身ニ
 處斷セシニ然ルモ不服ナリ道ニ事因以テ懲罰後論中事ニ附
 自檢申辨明証口供ニ相違無キ事立証セシ付申請大坂府
 口供ニ犯人ニ申立ル所夫記載スルモノニシテ口供讀聞ケノト犯人
 於テ相違之藤ニ吟味ニ即時申立テ改正ヲ求メヤキニ卯市ヲ異
 辭去ク摺印セシ自檢犯人所ニ罪ヲ承認セシ以テ大坂左ノ以テ
 大坂府警察署於テ吟味ヲ受ケタルモハ嚴キ強問ヲ受ケシニ因リ
 事實ニ相違セシ口供ヲ摺印セシ付申立テ相立テ異議者其
 而於卯市於明治十年三月七日大坂府警察署於テ吟味ヲ受ケ
 員供ニ関テ及テ其旨趣左ノ如キ事立証セシ付自檢犯人ニ

自分儀農業ノ者ニ候處八才ノ頃母死亡致十二歳ノ頃父利七ニ被
 召連山口縣下下ノ關ニ立越七歳ノ頃父同道ニ天生國福岡縣下
 豐前中津表ニ立歸リ同所ニ於テ父利七儀ハ按摩業相働余閑ニハ
 大博奕等相催糊口罷在候處明治六年月日不覺父浪四國路ニ發足致
 大候趣ニ未行衛忝相自分儀ハ其後筆墨等商ニ且博奕等相催
 亦所々漂泊徘徊中明治九年三月二十五日島根縣下鹿足郡六日市
 村土岩五郎方ニ止宿致候處同止宿人ノ内吳服商ノ者多分ノ金子
 所持致居候去見請ケ不斗盜心ヲ生テ盜取廿六日右吳服商ノ者ハ出
 立致候ニ付自分儀ハ該家ニ宿料不拂テ儘逃走致吳服商ノ者泊
 先未付行山口縣下大原村中村喜右衛門方ニ止宿致候處去密ニ親
 同夜十二時頃該家裏口戸ヲ明ケ忍入其節兵各不在事主眞佐美
 三郎兵衛附書之通衣類取交十八点盜取候点金子取交三百七拾圓

ト紺五巾風呂敷所持致餘品ハ悉皆該家ノ納屋ニ投捨置夫ヨリ廣
 島縣下へ罷越同所三因社古榮丸船へ乗込出帆當地へ罷越候船中
 所々湊へ着船碇泊中金貳百五拾八圓八拾壹錢ハ遊興代又ハ諸雜
 費ニ遣拂同六拾四圓六拾錢ハ當時所持罷在候衣類等ハ四品購求
 致殘金四拾六圓五拾八錢五厘所持罷在候處第三大區三小區勒上
 町通壹丁目ヨリ於テ被召捕候事
 右ノ供狀ハ卯市カ眞實ノ白狀ナリト認定スヘキモノナリトス故ニ
 大阪裁判所ニ於テ卯市カ罪ヲ斷スルコト同所ニ於テ審問ヲ受ケシ片
 大阪府警察署ニ於テ爲セシ口供ヲ翻異スト雖モ卯市カ大阪府警察
 署ニ於テ摺印爲シタル口供其他現今所持セル贓品等ノ証憑ニ依リ
 窃盜三百圓以上窃盜律ニ依リ懲役終身申付タルハ不適當ノ裁判ニ
 非ストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十二年一月二十八日大阪裁判所ニ於テ印市
 ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヲ以テ上告狀却下スルモツ
 ナリ

第三百六十九號

○判文(持兇器強盜ノ件)明治十二年四月十二日上告
 明治十二年九月廿七日判決

石川縣越中國富山西町

平民當時東京府寄留

城 政治 郎

明治十二年三月
 二十一年三月

右政治郎明治十二年三月二十八日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受テ
 口供左ノ如ク

日自分儀明治十一年六月中出京處々徘徊ノ末橋本町一丁目旅人宿高
 官山清右衛門方ニ止宿罷在遠江國豐田郡二俣村内山幸藏同國山名郡
 廣岡村大場可壽見三河國寶飯郡御油驛中町木村知太郎當今住所不
 知小高良藏ト懇意ニ相成雜話ノ末是ヨリ強盜可致旨幸藏ノ發意ニ
 一同々意シ自分并幸藏同道柳原邊名前亦存古道具屋ニテ脇差二本
 代價六十錢ニ買求メ可壽見モ同所邊ニ悉杖ニ仕込百餘ル刀一本買
 求メ置時明治十三年三月二十四日夜銘々脇差並仕込杖又ハ棒等ヲ
 携帶清物町倉本張兵衛方家内ヲ窺フニ未ク寢臥サ、ル様子ニ付果
 テサシテ一同立別レ候事
 二明治十三年三月二十五日自分并内山幸藏大場可壽見小坂良藏俱々
 許横濱ニ相越シ夜ニ悉同所南仲通五丁目山田喜三郎表ニ至リ幸藏
 ハ戶外ニ瞭望シ自分并可壽見良藏ハ拔刀又ハ仕込杖ヲ拔キ細繩ヲ

持大押入金錢可差出旨申威シ金七十八圓紙入一ツ烟草入三ツ奪取
 細繩並其場ニ脇差并仕込杖ハ途中ニ投棄逃去直ニ歸京金六圓七十
 錢烟草入三ツ配分受テ烟草入ハ名住所不知通屑屋ニ代金壹圓賣
 拂右金並飲食ニ費用致候處御召捕相成候事
 前書奪金品代積進ニ金九拾三圓三拾五錢共相成候間
 右忍目供儀依リ明治十三年四月九日東京裁判所於テ左ノ裁判ヲ申
 渡
 其方儀内山幸藏等申合セ兇器ヲ携ヘ山田喜三郎方ニ押入金錢物品
 奪取並賍金九十二圓並又ハ倉本長兵衛方ニ押入又ハ右科ノ
 内改定律例第二百三十七條中改正條款ニ照シ持兇器強盜財ヲ得ル者
 申付懲役終身申付此法ニ違フ者申合セ懲役終身申付此法ニ違フ者
 結城政治郎等右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年四月十二日大審院

三上告ノ旨趣左ノ如シ
 抑モ不服ノ要点ハ内山幸藏等申合セ兇器ヲ携ヘ山田喜三郎方ヘ押
 入金錢物品奪取等ノ宣告書ハ素々内山幸藏ナル者ハ發意者ナリ其
 故如何トナレハ大場霞〔原〕并小坂良三ナル兩名ノ者ヲ相卒ヒ横濱
 港太田町通行ノ際不圖右三名ノ者ニ出會致候其際内山幸藏ナル者
 申聞候ニハ自分伯父當港ニ有之候ニ付金圓借用ノ爲メ唯今可罷越
 思惟候處幸ヒ面會致候ハ最モ好機會ナリ該金額ヲ以テ一ト商法可致
 所存ニ付即チ同道可致旨被申進候間無何心其場ヨリ同道致候然ル
 處當港居住山田喜三郎ナル者トハ素ヨリ別懇ニ付立寄可申旨ニテ
 該家ノ近傍ニ至候處内山幸藏申聞候ニハ前條金柵〔原〕可致申聞
 候ハ全ク偽リニテ實ハ該家ニ押入ラシト想テナリ我等義ハ直チニ
 押入可申間自分義ハ戶外ニ見張可罷居談判ニ被及今更如何トモ遁

ル、ノ道ナク任其意候處彼等義ハ即チ押入候ニ付私義ハ直チニ該
 場ヲ逃レ去リ氣車ニ乗シ東京表ヘ歸京致候然ルニ本年三月八日第
 三方面第三分署ニ於テ捕縛ニ相成御調ノ際右始末逐ニ申上候送押
 印仕當三課ニ御送付ニ相成然シテ御糺問ノ際モ前同様明瞭ニ申上
 兇器ヲ携テ并ニ九拾圓余ノ金額等盜取候覺決テ無之旨申上其後東
 京裁判所ニ於テ御糺問ノ際モ前同様屢々申上候處御掛リ御役員被
 申候ニハ假令兇器ヲ携ヘ候テモ又ハ携ヘス候トモ刑律上ニ於テ聊
 モ差違アルコトナシ僅カノ日數服役致候ハ、相濟可申ト懇々御説諭
 ヲ蒙リ候ニ付何心ナク拇印致候處豈圖シヤ今般ノ宣告書ヲ閱スレ
 ば懲役終身ノ御所刑ヲ蒙リ大ニ驚愕致候左スレハ曩ニ裁判所ニ於テ
 御説諭ヲ蒙リ拇印致サセラシ候御役員ハ人民ヲ欺罔セラレシコト思
 ハカ果シテ然ラバ粉骨碎身相成候テモ拇印ハ決シテ致間鋪モノナ

今更残念至極ニ御坐候依テ不服ノ要点如此ニ御坐候間今日上告仕候仰キ冀クハ原裁判ヲ破毀シ更ニ公明ノ御判決ヲ以テ覆審被仰付度奉懇願候以上

大審院ニ於テ裁判スルコト左ノ如シ

上告ノ主点

上告人結城政治郎カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

第一 内山幸藏義伯父ノ方ヘ金借ニ罷越スト申ヌニ付何心ナク同道セシ處山田喜三郎方ノ近傍ニ至リ押入ル旨申聞ラレ止ム所ヲ得ヌ其意ニ從ヒタルニ幸藏等押入ル際逃歸リ以テ刑律上差違第二 東京裁判所ニ於テ兇器ヲ携ラルモ携入ル旨刑律上差違ナシト説諭セラレシニ付押印セシコトヲ以テ差違ニ辨明

第一條

結城政治郎ハ内山幸助ヨリ伯父ノ方ニテ金圓借用致ス由申ヌニ付何心ナク同道セシ處山田喜三郎方ノ近傍ニ至リ押入ル旨申聞ラレ止ム所ヲ得ヌ其意ニ從ヒタルニ幸藏等ヲ押入ル際逃歸リ以テ申立シニ共犯人内山幸藏大場可壽見カ明治十三年三月二十八日東京裁判所ニ於テ爲シタル口供ノ要旨及ビ事主山田喜三郎カ明治十二年二月廿六日神奈川縣廳ヘ差出シタル盜難訴書ヲ閱テ左ノ如シ

内山幸藏口供

自分儀明治十一年四月中家出シ處々徘徊シ末出京橋本町一丁目旅人宿高山清右衛門方止宿中同國山名郡廣岡村大場可壽見ニ出會候後越中國新川郡富山西町結城政治郎三河國寶飯郡御油驛中

町木村知太郎並ニ當今住所不知小坂良藏ナル者ト懇意ニ相成種々雜話ノ末是ニリ強盜可致旨自分發意ニ一同同意ニ自分並ニ政治郎同道柳原邊名前不存古道具屋ニテ脇差二本代金六拾錢ヲ買求メ可壽見モ同所邊ニテ杖ニ仕込タル刀買取置キ明治十二年一月十七日夜良藏並ニ自分ハ脇差可壽見ハ仕込杖ヲ携ヘ元大工町諸星新五郎方ニ三人共拔刀ニテ押入リ暴威ヲ示シ金廿圓四拾三錢五厘奪取内五圓配分受ケ飲食ニ費用致候事

明治十二年一月二十四日夜自分並ニ大場可壽見結城政治郎木村知太郎小坂良藏申合セ銘々脇差並ニ仕込杖又ハ棒ヲ携ヘ青物町倉本長兵衛方家内ヲ窺フニ未ダ寢臥サ、ル様子ニ付果サズシテ一同立別候事

明治十三年一月二十五日自分并ニ大場可壽見結城政治郎小坂良

藏俱々横濱ニ相越シ夜ニ入リ同所南仲通五丁目山田喜三郎方ニ至リ自分ハ戶外ニ瞭望シ可壽見外二名ハ拔刀又ハ仕込杖ヲ拔キ細繩ヲ持テ押入金錢可差出旨申威シ金七拾八圓紙入一ツ烟草入三ツ奪取リ細繩ハ其場ニ脇差并仕込杖ハ途中ニ投棄逃去直ニ歸京右ノ内六圓七拾錢配分受飲食ニ費用致候事

大場可壽見口供

自分義明治十一年十二月中出京處々徘徊ノ末同國豐田郡二俣村内山幸藏ニ出會橋本町二丁目旅人宿高山清右衛門方ニ止宿罷在越中國新川郡富山西町結城政治郎三河國寶飯郡御油驛中町木村知太郎并當今住所不知小坂良藏ト懇意相成雜話ノ末是ニリ強盜可致旨内山幸藏ノ發意ニ一同々意シ自分ハ柳原邊名前不存古道具屋ニテ杖ニ仕込タル刀一本代價九十六錢ニ買求メ幸藏政治郎

親同所邊ヲ勝差二本買求不證明治十二年一月廿七日夜幸藏良藏及麻差自分金銀仕込杖ヲ携へ同元太工町諸屋新五郎方ヨリ三入方ニ抜刀ヲ共押入暴威ヲ示シ金銀三十圓四拾三錢五厘奪取自分ハ配分受分不申候事
 明治十三年六月廿四日夜自分并内山幸藏結城政治郎木村知太郎小坂良藏申合セ銘々勝差并仕込杖等ヲ携へ青物町倉本長兵衛方家内ヲ親不ニ求不寢臥候ル様子ニ付果サスシテ一同立別候事
 明治十二年一月廿五日自分並内山幸藏結城政治郎小坂良藏俱々横濱ニ相越シ夜ヨリ入り同所南仲通五丁目山田喜三郎方ニ至リ幸藏ハ戶外ニ隙望シ自分政治郎良藏ハ抜刀又仕込杖ヲ拔キ麻繩ヲ持テ押入メ金銀可差出旨申威シ金七拾八圓紙入三ツ煙草入三ツ奪取麻繩ハ其場ニ勝差並仕込杖ヲ途中ニ捨棄廻去直ニ歸

マシ 京金六圓七十錢配分受ク飲食ニ費用致事
 山田喜三郎盜難訴書
 右ハ昨二十五日夜十一時頃私方ニ太田町六丁目今村ヨリ參リ候者ニ付菓子吳候様申ニ付表ノ戸ヲ明ケ候處三人一時ニ押入二人ハ銀類ヲ携へ三人共坐敷へ上リ金員和渡可申左モ無之候へハ打ハタシ候杯申前記載ノ品々盜取リ立去リ候依之此段御訴奉申上候以上(品數ハ) 零ス
 右幸藏可壽見カ口供 政治郎カ口供符合スルノ事ヲ喜三郎カ書面ニモ宅内へ押入リシハ三名ニテ其節ハ幸藏カ戶外ニ見張リ居リシ儀ナレハ政治郎ハ可壽見等ト喜三郎方ニ押入メ金圓奪取ル事明白ニシテ毫モ疑ナ容レサルモノトス
 第三條

政治郎ハ東京裁判所ニ於テ兇器ヲ携フルモ携ヘサルモ刑律上ニ差違ナシト説諭セラレシニ付摺印セシ旨申立レテ口供ハ犯人ノ申供スル所ヲ其儘録取スルモノナレハ政治郎ニ於テ口供讀聞ノ節相違ノ廉アルト思量セハ即時申立改正ヲ求ムヘキニ異議ナシ之ニ摺印セシハ自カラ犯セシ罪ヲ承認セシモノトス故ニ東京裁判所ニ於テ政治郎カ幸藏外三名ノ者ト山田喜三郎方ニ押入り金圓奪取シ科改定律例第二百二十七條中改正條款ニ照シ懲役終身ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラズトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年四月九日東京裁判所ニ於テ結城政治郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ付上告狀却下スルモノナリ

第三百七十號

○判文(持兇器強盜ノ件)明治十二年八月十一日上告

大坂府南區日本橋筋五

丁目平民

河内新吉

明治十二年七月十八日

右新吉カ明治十二年七月九日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受シ口供左ノ如ク

明治十二年二月大坂裁判所ニ於テ賭博竊盜ニ罪俱發ノ科ニ付シ杖八十ニ處セラレ

明治十二年四月十日大坂裁判所ニ於テ竊盜ニ犯シ科ニ付シ杖六十ニ處セラレ

自分義明治十三年一月八日兼テ知ルル人ナル杉本音松ナル者外ニ二人知ラサル人ヲ同道ニテ自分方へ罷越シ日本橋筋三丁目柏原竹松方へ罷越スヘキ旨申勸ムルニ付其意ニ任セ同行セル處其場ニ高知縣士族以由ナル大江貢ナル者モ居合セ種々雜談ノ末竹松ヨリ今夜東近城在ニテ窃盜相働ヘキ旨申出ルニ付皆々然ルヘシト同意シ其節同謀者之内池浦三右衛門ヲ迎ヒテ罷越シタル林善右衛門ヲモ同道シ都合七人連レニテ竹松方ヲ立出テ尤モ其節竹松ハ土藏ノ壁或ハ家尻ヲ切ルタメナルトテ兼テ用意ノ刀ヲ五本計取出シタル竹松外々ノ者ハ携ヘ自分ハ無手ニテ一同東ヲサシテ罷越ス途中ニ於テ音松ハ藤井榮次郎ト申ス者ヲモ連レ來リ都合八名連レト相成テ北區相生町ニテ名前不存牛肉店ニ立寄リ各酒食シ夫ヨリ同家ヲ立出テ仍ホ東ヲ指シテ赴ク途程中音松ハ酒狂ノ上何カ自分へ持チ無キ事ヲ申掛ケ刺

刺手ヲ以テ自分ノ胸ヲ衝キ候故自分ハ油斷シテ居リタルカ爲メ同次居ル榮次郎へ跟ケカハリタルヨリ自分モ憤然トシ堪ヘズ榮次郎ト共ニ音松ニ取掛リ互ニ喧嘩致シタル處其場へ竹松立入り双方ヲ宥メ且自分ト榮次郎ニ向ヒ喧嘩ナラ爲ナラハ立歸ルヘト申サシ候故自分ハ榮次郎ト共ニ其場ヨリ立歸リ申候故ニ音松等ハ其後如何様ノ所業ヲナセシヤ一向存セサル義ノ處明治十二年四月二十二日大坂府御警察署へ御拘引ツ上右明治十二年一月八日竹松音松等ト共ニ兇器ヲ携ヘ東成郡野江村西田八兵衛方へ強盜ニ押込メタルモ其旨御吟味相受テ如何共實情前述ノ通り柏原竹松ノ窃盜ニ共ニ旨ヲ發言ニ同意ハ致シ候共強盜トシテ申掛ハ決シテ即致シ申サハルニ付其段申述候へ申必定兇器ヲ携テ強盜セシニ相違ナラサレ旨ニ最モ身體ヲ打碎惱メサシ候故若痛ニ堪ヘズ終ニ

竹松ト共計兇器ヲ携ヘ強盜セシ旨口供ニ據仰仕候事ニ據テ
 明治十二年八月六日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
 其方儀柏原竹松ノ發意ニ同シ杉本音松外五人申合セ兇器ヲ携ヘ東
 成郡野江村西田入兵衛方ヘ押入り財ヲ得サル科改正強盜律ヲ準リ
 從タルヲ以テ懲役十年申付ル
 但曩ニ警察署ニ於テナシタル口供ヲ翻異シ強盜ヲ行フ段意ヲ
 且ツ途中ヨリ歸宅シ犯所ヘ立入ラサル旨申供スト雖モ同犯音松
 才次郎貢三右衛門善右衛門カ警察署ニ於テ孰レモ俱ニ同行セシ
 旨申供スルヲ以テ警察署ニ於テノ口供ハ眞實ノ白狀ト確認ス因
 テ本文ノ如シ
 河内新吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年八月十一日大
 審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

私儀御不審ノ義有之本年四月廿二日警察ヨリ御召捕ニ相成本年一
 月八日野江村農何某方ヘ姓名不存強盜ニ忍入候筈有体可申上旨御
 糺ニ御座候私朋友杉本音松等八人連ニテ竊盜可相働申合仕候得共
 中々強盜杯與申義決而無御座旨申上候處則本署ヘ御引直原ニ相
 成再御糺ニ御座候得共私義其場ヘ不立寄途中ヨリ立戻リ候段申上
 候處嚴敷御吟味被仰付實ニ其場ヘ不立寄義ニ候得共餘リ嚴敷御吟
 味ニ付一命ニモ係ルト存其場ヘ共ニ罷越候段申上候得ハ御吟味御免
 シモ御座候ト存其旨申上候處御裁判所ヘ御引渡ニ相成候ニ付實ハ
 大右音松私竊盜ニ罷越候場所ヘ不參旨音松ヨリモ申上吳候得共御
 取上ニ無御座警察署ニテ餘リ嚴敷御吟味ニ相成不得已右場所ヘ立
 交リ候旨申上候處一旦警察ニテ申上候段確証ト相成依之懲役十年
 御申付相成候得共私其場ヘ不立寄途中ヨリ立戻リ候ニハ右朋友清

松本初申上誤候明白証人御座候旨十年懲役御申付ニ相成候筈
 無之存何ニ不服付何卒原裁判ヲ破毀ノ上至當ノ御裁判被
 成下度伏而奉願候也
 大審院ニ於テ裁判スルノ如シ
 上告人河内新吉カ請求スル所ノ左ノ條件ヲ申付
 窃盜以テ申合也同行致シテ途中ヨリ立歸リ且杉本音松信
 以共旨証言ニ申合也同行致シテ途中ヨリ立歸リ且杉本音松信
 河内新吉カ窃盜以テ申合也同行致シテ途中ヨリ立歸リ且杉本音松信
 杉本音松ヨリ其旨証言ニ申立レモ同夥音松カ明治十二年四
 月三十日大坂府警察本署及ヒ明治十二年五月三日大坂裁判所檢事局

ニ於テ爲シタル口供左ノ如シ
 杉本音松大坂警察署於テ爲シタル口供
 前科 明治十二年三月五日大坂資力ナリ
 自分儀難澁ニ迫リ候折柄明治十二年二月八日同業兵庫縣有馬郡
 塩田村車夫川口才次郎止宿所ニ立越シ候處日本橋筋三丁目池浦
 三右衛門ナルモシ來合セ嘶ク末三右衛門ノ發意ニテ窃盜可相
 働申合セ三人連ニテ立出同所五町目河内新吉方ニ自分立寄リ嘶
 シ序ニ窃盜相働ニシテ申働同入ニ都合四人三右衛門ノ馴染
 以由同町壹丁目柏原竹松方ニ至リ同家ニ階ニ上リ候處其箇不存
 高知縣士族ノ由次江貢外ニ東成郡天王寺村林善右衛門ノ兩人竹
 松ノ物語リ居ルニ付七人供ニ雜談シ末東近在ニ於テ今夜強盜可
 相働ニ竹松ノ發意ニ同シ候旨ニ竹松ノ脇差五本計取出シ自分并

才次郎新吉へ貸呉レ竹松ハ殘二本ヲ懷中ニ貢ハ自分所持ノ刀ヲ
 携へ善右衛門三右衛門ハ無刀ニテ同夜七時頃皆々立出テ候途中
 自分ハ同町三丁目藤井榮次郎ヲ誘引シ北區相生町名前不存牛肉
 店へ立寄り飲食致シ候内竹松ヨリ榮次郎へ強盜相働シニ付同行
 スヘシト云フニ隨ヒ同意致候ニ付竹松ヨリ脇差一腰榮次郎へ貸
 シ與へ八人同道ニテ牛肉ノ價ハ竹松ヨリ相拂同夜十一時頃東成
 郡野江村其節不存西田八兵衛方へ立越シ三右衛門善右衛門兩氏
 ハ外ニテ往來ヲ見張ラセ自分ハ高堀ヲ乘越シ内區門ヲ開テ
 ニ付竹松外四人供ニ立入り裏口ノ戸口ハ一時ニ閉テ外門ヲ
 閉スル物音ニ盜賊ナリト家内ヨリ聲ヲ掛ケ太鼓ヲ頻リニ打鳴シ
 候ヨリ村民追々得物ヲ携へ駈付ル様子ニ驚キ其場ヲ逃去リ刀ハ
 竹松方へ持行キ大江貢へ相渡シ候然ルニ竹松ハ其場ヨリ行衛生

死モ不相分候ニ付如何致セシ哉ト案シナカラ其儘ニ過去リ候其
 後三月自分儀竊盜犯ニ依リ御糺ヲ受ケ候節前條強盜一件ハ包藏
 致シ竊盜ニテ御處刑相受ケ候處無籍ニ付當時懲治楯ニ閣カレ候
 然ルニ右始末終ニ發露ニ及ヒ四月廿二日御拘引ノ上御取調ヲ蒙
 リ前書ノ所業有体申上候事
 右ノ通相違不申上候以上
 杉本音松大坂裁判所檢事局ニ於テ爲シタル口供
 自分犯罪ノ廉々御訊問ニ候處最初警察署ニ於テ申上候通相違無
 之候以上
 右ノ口供及ヒ其他ノ共犯川口才次郎外四名カ口供並ニ新吉カ最初
 大坂警察本署ニ於テ拇印シタル口供ト符合スルノミナラス杉本音
 松ハ新吉カ中途ヨリ引歸リシトノ申立更ニ無之ヲ見レハ新吉ハ音

松等正共々西田八兵衛方へ押入シテ明白ニシテ而シテ新吉ハ其初
支自カラ犯セシ罪ニ承服セシモ以テ大坂裁判所ニ於テ改正
強盜律ニ依リ從タルヲ以テ懲役十年ト申渡シタルモ不法ヲ裁判
アラズトス

右ノ如クナルヲ以テ明治十二年八月六日大坂裁判所ニ於テ河内新吉
ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ
也

第三百七十三號ニ於テ四月廿二日裁判所長ノ上告狀ニ對シテ

○判文圖殿外件明治十二年九月十九日判決

明治十二年九月廿九日判決
熊本縣肥後國飽田郡建

其官職ニ依リテ明治十二年九月十九日判決

右任事カ明治十一年十二月十一日熊本裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口

供左ノ如クシテ
自分儀熊本縣熊本坪非持備小路居住當時熊本小澤町西福寺寄留士

族西松敏貴ニ金圓取引シテ紛紜生シ明治十一年十月十五日

朝敏貴方於テ同人ヲ毆打シ傷ヲ付ル手續ハ熊本警察署宛ニ差出

置タル始末書ノ通ニ候事
明治十一年十月二十四日

昨明治十年三月變動ノ際西松敏貴ヨリ所望ニ應シ私所持ノ刀三本

勝差三本此代金十七圓外ニ米三十六俵此代金ハ其時以相場不相分

若以通賣渡候處其儘同人義行衛不相分候間同年六月十日ヨリ宿許

罷出處を方々ニ捜メ既ニ本年九月迄搜索仕候へ共終ニ相知レ不申
 然ル處同人義ハ當時小澤町西福寺ニ罷在候段聞及候間去ル九月十
 五日ノ朝同方へ罷越見候處成程罷在候ニ付不取敢右ノ代金辻催促
 仕候處同人返答ノ趣コハ不都合千萬了簡違ヲ致居候迎烟草管ヲ以
 テ私ニ撃テ掛リ候ニ付私儀モ即坐立腹ノ紛リ持テタル辨當入ニテ
 同人ノ天窓ヲ打テ候處同人ハ破傷ヲ爲シ右品ハ同人取揚候ニ付夫
 等リハ摺ニ掛リ申候兎ヤ角致メ内巡查衆御出ニテ御取鎮ニ相成申
 候右ノ通立腹ノ紛苛察ノ仕方ニ及候段ハ重疊奉忍入候
 右ノ口供ニ依リ明治十一年十二月十一日熊本裁判所ニ於テ左ノ裁判
 申渡シタル
 其方儀明治十一年十月十五日熊本小澤町西福寺寄留熊本縣士族西
 松敏貴ト金圓取引上ヨリ爭論ヲ爲シ一時ノ怒リニ乘テ携提シタル

辨當ノ器ヲ以テ敏貴ヲ毆テ傷ヲ負ハズル科罰毆律圖毆條瓦石棍棒
 等ヲ以テ傷ヲ成メ者ニ依テ論シ懲役四十日答ニ換ヘ答四十申付也
 糟谷仁平等於テハ右ノ處斷ヲ不當ナリトシ明治十一年十二月十九日
 大審院ニ差出シタル止告ノ旨趣左ノ如シ
 私儀明治十年三月十五日頃ト覺ヘ大小刃合テ五本代金拾七圓ニテ
 上當時熊本小澤町西福寺寄留士族西松敏貴へ賣渡シ其後屢催促仕候
 へ共彼是レ申紛烈代金遣シ不申ルノミナラス明治十一年十月十五
 日右代金催促以際敏貴申様昨十年鹿兒嶋暴擧ノ節ハ多少ノ恩義モ
 有之ニ斯ク催促致ス段實ニ了簡違ナリトテ烟管ヲ以テ二三十程打
 擲シ及ル流射一時ノ憤怒ヲ耐テ行厨器ヲ以テ敏貴面部ヲ毆テ傷
 を負シ及リ右科罰毆律圖毆條瓦石棍棒等ヲ以テ傷ヲ成メ者ニ依テ
 論シ懲役四十日答ニ換ヘ答四十申付也以上御言渡シ受テ候様也

私儀兼テ中風症ニテ左半身不隨ノ段屢上申置テ定メテ收贖ノ御裁判可有之奉存候處圖ラシヤ答四十ノ御實斷ハ何分不服ノ旨ナラス實ニ病根ニ培ヒ因テ死ヲ致スノ外無之ト相考候間此段奉告上告候

大審院ニ於テ裁判スルノ如シ

上告ノ主点ハ

上告人糟谷仁平カ請求スル所ハ左ノ條件ナリトス

中風症ニ罹リ癱疾者ナル旨屢上申致シ置キタルヲ實斷ニ處セラレ

大シハ不服ナリトシ

辨明

糟谷仁平ニ於テハ中風症ニ罹リ半身不隨ナル旨屢上申セシ申立

レ仁平カ自カラ差出シタル始末書及ヒ熊本裁判所ニ於テ捺印セ

シ口供ニモ右ノ事田ヲ掲載セサルニ依レハ仁平カ其節屢上申セシトノ申立ハ無証據ニシテ眞ヲ措クニ足ラサルモノトス加之求刑官ニ於テ果シテ癱疾者ノ徵候アリト認ムレハ假令仁平カ申立サルモ其理由ヲ取調ヘ診斷書ヲ附シ公判ヲ求ムルニシテ癱疾者ヲ不問ニ措クヘキモノニ非サレハナリ依テ熊本裁判所ニ於テ懲役四十日答ニ換ヘ答四十申付ルトノ裁判ハ不適當ノ裁判ニアスルトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十一年十二月十一日熊本裁判所ニ於テ糟谷仁平ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第三百七十二號

○判文竊盜三犯ノ件明治十二年五月十日上告
明治十二年九月廿九日判決

熊本縣肥後國玉名郡上

白木村平民

清田末八

明治十二年一月二十九日

右末八、明治十二年四月廿五日熊本裁判所ニ於テ審問ヲ受テシ、口供左ノ如シ、

明治四年五月廿八日竊盜ノ科ト依テ熊本藩ニ於テ杖六十ノ刑ニ問處セラル。明治五年六月八日竊盜再犯ノ科ニ依テ熊本縣ニ於テ杖八十ノ刑ニ問處セラル。明治十年十月五日逆意賣金、官兵ニ抵抗スル賊徒ト爲テ雜役官ニ供テ、雖モ善情狀ヲ酌量シ免罪ノ旨熊本出張九州臨時裁判所ニ於

御申渡シ受テ候事。前罪三度共未吉ト申立御處刑ヲ受テ、今少私ノ事ニ相違無シ。明治四年中盜罪御取調ノ節何等ノ間違ヒナク、私事未吉ト御申聞ニ相成タルヨリ御土ノ帳面前未吉ナルハ存シ、其儘御受申上、其後退々御調ノ節モ每度未吉ト申立居候事。一自分儀貧困ノ餘リ猶又不良心ヲ生テ、明治五年七月以來八代郡八代町士族近藤包節宅外拾壹ヶ所ニ於テ金拾六圓并衣類等百三拾品盜取タル次第及ビ、明治六年八月中八代出張所拘留中逃走致シ、明治八年正月、矢部郡濱町ニ於テ捕縛サレ、甲佐警察分署ニ護送シ、途中看守ノ隙ニ伺ヒ、猶又逃走、同三日縛ニ就キ、熊本縣ニ入獄中、明治十年ノ變亂ニ際シ、一時解放ヲ受テ平定ノ後、復歸致スル處却テ賊徒ト與シ、官軍ニ抗シ、始末等明治十一年八月熊本縣警部ニ面前ニ於テ

申立タル口供御讀聞セシ相成左ノ一條ヲ除クノ外聊相違ノ儀無之
併右口供ノ内半助供々或ハ半助同道トアルハ半助ノ發意ニ私同意
ト認シタル儀ニ候事
一 熊本縣警部以面前ニ於テ摺印ヲ爲シタル口供ノ内明治五年六月八
日竊盜再犯ノ科ニ依リ熊本縣ニ於テ杖八十ノ刑ニ處セラレタリト
申立タルハ偽リニテ竊盜再犯ニテ杖刑ニ處セラレタルニハアラズ
一 右刑ヲ受ケタル譯語登時惡意ニ相交リテ井上惣八ヲ盜取シタル物
品ヲ其情ヲ知ラズ賣入又ハ賣却シ取次ヲナシタルヲ以テ右物
品代價ノ内贖金ハ自分ヨリ他ノ人ニ賣拂ヒタルヲ惣八ヨリハ
拾錢ニ賣入タルヲ詐リ剩ル貳拾錢ヲ竊取リ置タル罪ニ依リ本
刑ニ處セラレタルモノナレバ直ニ竊盜トシテ難ク然ル時此
節竊盜三犯ヲ以テ御裁判ニ相成テハ迷惑千萬ニ付前度ノ刑ハ竊盜再

犯カ又ハ前文ニ申上ル通ナルカ幸ヒ井上惣八モ當今熊本縣ニ入獄
中ニ付御取調被下度且明治五年即チ前度以刑ヲ受ケタル節迄ハ御
裁判ニ言渡シテ罰文等下附無之因テ外ニ證據等ハ無之候事
明治十三年五月一日熊本裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
其方儀明治五年七月以來熊本縣八代郡八代町士族近藤包節外十壹
所ノ忍入リ金拾六圓及ヒ估計金七拾壹圓拾四錢ニ値ル衣類等百
三拾品盜取リ明治六年八月中八代出張所拘留申逃走致シ明治八年
三月六日護送ノ途中猶又逃走ナルヲ以テ明治四年五月廿八日
竊盜ノ科ニ依リ熊本縣ニ於テ杖六十明治五年六月八日竊盜再犯ノ
科ニ依リ熊本縣ニ於テ杖八十ノ斷決ヲ受ケタル者ニ付竊盜三犯罪
上金五拾圓以上改定律例第三百三十五條ニ照シ懲役終身申付ル
末ハ但シ脱越逃走スル罪ハ本罪懲役終身ニ入ルヲ以テ加等セズ

末八日於東京若受裁判不法手段遂於明治未二年五月廿日大審院ニ
 上告之旨趣左之如以將刑罰第三十三條ニ依テ懲罰減半申付
 明治五年六月八日竊盜再犯ノ科罰依リ熊本縣ニ於テ杖八寸ニ斷決
 受ル所ヲ得六則ニ井上惣八ヲ被告以依頼ニ因テ其贓品返還シテ
 承知致チ勞役明治四年十二月中熊本細工町五丁目鶴島善五郎方並
 三鹿兒島縣下米津町姓名不存商人ニ賣却且[原]物品代價
 内壹圓以者ハ八拾錢賣拂ヒテ向人等欺誘剩貳拾錢詐取致
 該盜一件ナリ該証人等若井上惣八ハ明治六年六月廿四日其盜罪
 即任テ懲役十年ニ處テラレ、後ニ付テ同人モ猶當時依然トシテ生
 存居シ遂就中熊本縣警部ノ御取調ニ節々右盜次第三再[原]申立
 テラレ、[原]物ハ儀鹿兒島賊徒闖入ノ際一時解放後投歸セテ左ノ
 以一個ノ空言ナリトシ事ニ付不得止竊盜三犯ノ悔印ヲ成テタルナリ

其後不圖井上惣八入獄致シタルニ付熊本裁判[原]ニ於テ仔細上申
 致シテ處直ニ証人取正ヲ可キヲ趣キナリ、証人云々判言モナ
 ヲ只ニ三犯五拾圓以上懲役終身ノ斷決ハ不服ニ付主告仕渡此段奉
 願候以上[原]大審院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ
 大審院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ
 上告人清田末八カ請求スル所ハ左ノ條件ヲ以テ申付
 再犯ノ盜罪ハ内實井上惣八ノ依頼ヲ受ケ其贓品ヲ他ニ賣却セシ
 ヲコトシテ決テ盜罪ヲ犯セシニ非カリシモ當時惣八ノ不在ナルニ
 據就キ止メ得ズ竊盜三犯ノ悔印爲テハ冷テ惣八ニ其儀應
 御取糾判言モ之ヲ無シテ竊盜三犯懲役終身判裁ナリ
 ハ不服申ノ事

不辨明人

明治五年五月二十二日未八外一名カ熊本縣ニ於テ糺明受ケシ供
 狀並ニ明治五年六月八日熊本縣ニ於テ未八ニ申渡シタル狀ヲ閱ス
 ルニ左ノ如クニ糺明シテ非ニ申渡シタル供狀ニ入テ不辨明人ニ
 再糺メ糺就御糺明仕上口書ニ糺明シテ糺明品ニ申渡シ置キ
 上書六味吉申上候私生所小田郷白木村行テ父者才助ト申存生ニ居外
 ニ七十才以上之家族無御坐候私儀致盜候ニ付去年五月六十杖之
 大御刑法被仰付置候
 糺明宗平申上候私生所元天草下津良村ニテ當時本庄郷別所村假人
 ニ數ニ罷成父者喜入申存生ニ居外ニ七十才以上之家族無御坐候
 糺私儀致盜候ニ付去年十一月六十杖之御刑法被仰付置候
 其糺明申上候私共儀申合致盜候ニ付去年十二月十六日未吉儀中

茶岸編女綿入

壹

第二大區裏小路ニ於テ被差押宗平儀カ古町懸船場貳丁目ニ於テ
 被差押兩入共拾一日元教悅園ニ被入置末吉儀カ同十八日宗平儀者
 同廿二日就新牢内御圍ニ御移替ニ相成右始末御吟味被仰付候
 此儀末吉申上候私儀前文ニ通御刑法被仰付置候ニ付テハ此ノ
 心底相取可申處幕方難儀ニ差迫候處ニ及々不所存差發同
 類申合致盜候次第左ノ通ニ申上候
 一物數目
 内箱
 鼠堅編男帷子
 御召縮緬堅編女綿入
 澤井鼠形付女單
 茶岸編女綿入

黑澤井女綿入

壹

但私分取新鳥屋町高瀬屋惣兵衛へ持越盗品トハ不申聞鳥目
七百五拾目致借用候代物ニ預置右鳥目ノ内百五拾目ハ私壹
人ニ遣捨殘六百目私所持イタニ居候處元教悦支配惣八并
此節一同御吟味被仰付候同支配龜吉私三人出會候節惣八ヨリ
鹿兒島御縣内存居候ニ付盜ニ參申度相談仕候ニ付龜吉私同
意不致去年十二月朔日ヨリ三人同道鹿兒嶋ノ様ニ參候節
龜吉儀ハ小遣錢等所持致シ不申候ニ付右六百目盜品致錢
儀打明シ右御縣内ニ參候路用等ニ龜吉惣八私三人ニテ俱ニ
同津遣捨候段申上候得者龜吉手前ハ御吟味惣兵衛手前ニ御問洽
遊儀相成候處孰ニ相違無之物兵衛ヨリハ品物無代錢ニテ差出候
段ニ付被盜注ノ御方ニ先引渡被置候ヲ請取相成候段書付ヲ

以テ被相達候由被仰聞奉承知候

花色岸綿女單

壹

但私分取致所持居候處右御縣内藏島ト申所ニテ代錢貳百目
立白米ニ替前文惣八龜吉私三人ニテ俱テ給仕舞申候
唐棧茶縞襦綿入 壹

茶岸綿帛

壹

但宗系分取本庄郷迎寶町益城屋清七方ニ持越盗品トハ不申
聞都合代錢貳百五拾五匁ニ質入テ差出遣捨候段御吟味ニ申
上候由ニテ質屋手前御問合ニ相成候處相違無之品物無代錢
ニテ差出候ヲ付被盜主之御方ニ先被引渡置候ヲ請取相成
候段書付ヲ以テ被相達候由被仰聞奉承知候

黒々之下ノ單

壹